

第5部

区の将来像



1 策定の経緯

2 区の将来像

- ・ 沢区
- ・ 大出区
- ・ 八乙女区
- ・ 下古田区
- ・ 上古田区
- ・ 中原区
- ・ 松島区
- ・ 木下区
- ・ 富田区
- ・ 中曽根区
- ・ 三日町区
- ・ 福与区
- ・ 長岡区
- ・ 南小河内区
- ・ 北小河内区

3 区と町の連携について



第5次振興計画の推進にあたっては、地域コミュニティの核となる区の役割は重要です。また、人口減少時代を迎えても区の歴史や文化、区独自の行事による人のつながりなどを守るために区の維持、活性化が必要不可欠です。

そこで、第5次振興計画の策定に当たり、町全体でまちづくりの基本理念や目指す町の将来像等を共有し、まちづくりを推進していくため町内全区で区の将来像を作成しました。

(1) まちづくり地区懇談会（後期計画策定）

後期計画の策定（区の将来像の改定を含む）にあたり、町政に対する町民の率直な意見を伺い、まちづくりの参考にするため、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に配慮し、区長、区議会議員、関係団体役員等に人数を絞り、まちづくり地区懇談会を開催しました。

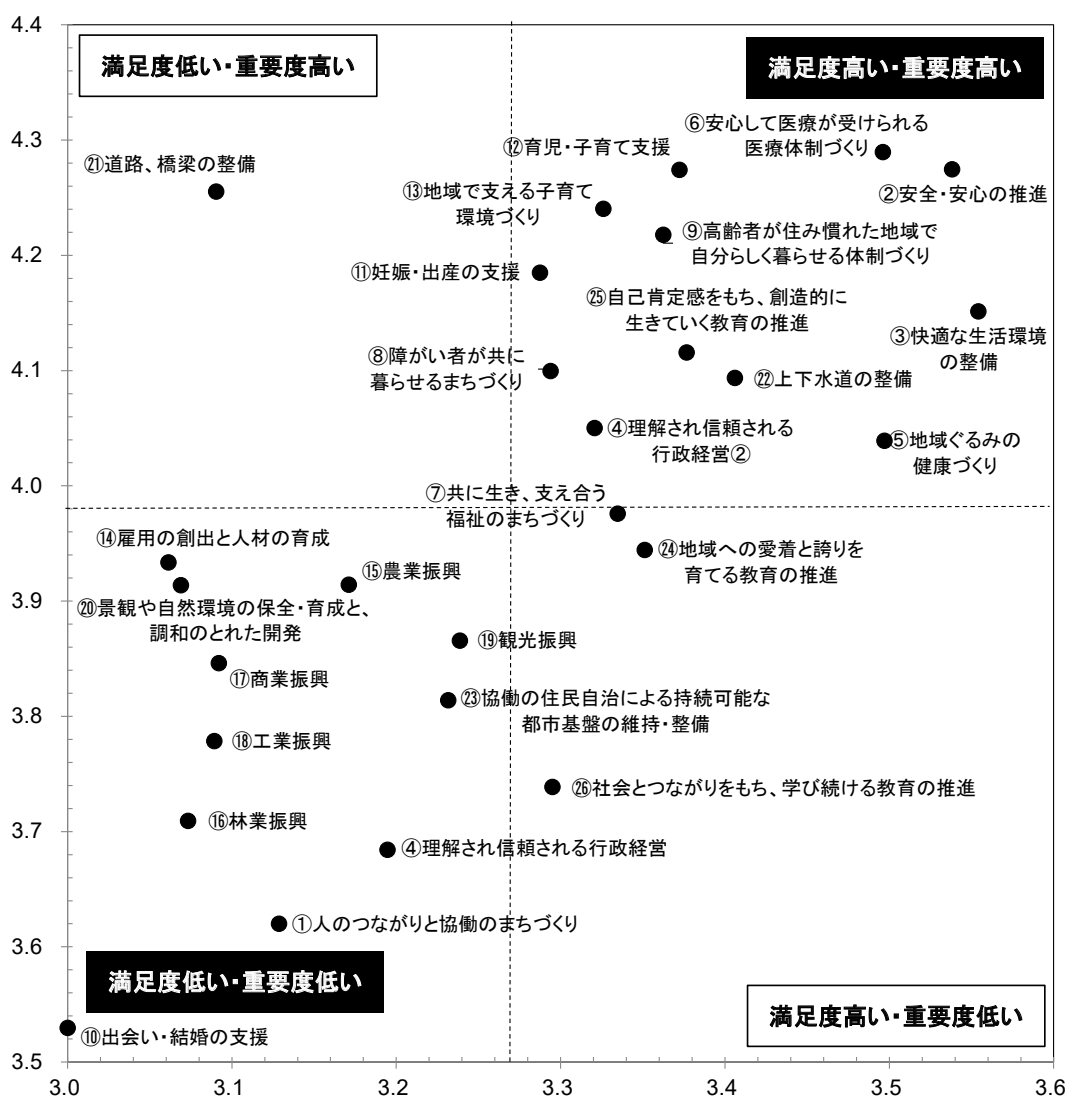
◎令和3年度まちづくり地区懇談会開催日程及び参加者数

開催地区	開催日時	参加者数
下古田区	7月3日（土）午後7時～9時00分	25人
中原区	7月5日（月）午後7時～9時00分	15人
大出区	7月10日（土）午前9時～11時00分	15人
南小河内区	7月10日（土）午後6時～8時00分	10人
福与区	7月13日（火）午後7時～9時00分	20人
中曽根区	7月15日（木）午後6時30分～8時30分	14人
木下区	7月16日（金）午後6時30分～8時30分	20人
富田区	7月20日（火）午後7時～9時00分	30人
沢区	7月21日（水）午後7時～9時00分	29人
三日町区	7月24日（土）午後7時～9時00分	25人
北小河内区	7月26日（月）午後7時～9時00分	20人
上古田区	8月3日（火）午後7時～9時00分	20人
八乙女区	8月7日（土）午後6時～8時00分	11人
松島区	8月18日（水）午後6時～8時00分	25人
長岡区	10月4日（月）午後7時～9時00分	14人
参加者合計		293人

令和2年度（2020年度）住民満足度調査における 各取組みの満足度・重要度の平均値比較

各取組みの満足度・重要度を得点化（「満足」を5点、「やや満足」を4点、「どちらでもない」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点として平均値を集計）し、未回答者を除く全回答者の平均値をグラフ化しました。点線は全質問の平均値（満足度3.27、重要度3.98）を表しています。

4分割されているグラフの向かって右上が満足度・重要度がともに高い項目で、左上は満足度が低く重要度が高い項目、右下は満足度は高いが重要度が低い項目、左下は満足度、重要度ともに低い項目です。



(2) 各区での策定作業

令和3年7月からまちづくり地区懇談会の意見、提言、住民満足度調査の結果を基に、各区の現状や人口将来予測などを把握し、町内全ての区で将来像の改定を始めました。各区の人口将来予測は、令和2年（2020年）策定の「箕輪町人口ビジョン」の人口推計を採用し作成しています。

検討にあたり、各区の抱える課題の整理や目指す区の方向性、主な取組みを検討し、第5次振興計画の基本構想を踏まえた区の将来像の改定を行いました。

(1) 区の将来像

沢区

歴史と伝統を受け継ぎ、
次世代の若者が育つ 沢

富田区

豊かな自然と癒しの風景に
区民が集う 富田

大出区

豊かな自然、肥沃な大地、
恵まれた立地に歴史が息づく 大出

中曽根区

伝統と自然の中で
みんな笑顔に 中曽根

八乙女区

区民の絆が暮らしをつなぐ
心触れ合う 八乙女

三日町区

活力とふれあいが
明日をつなぐ 三日町

下古田区

伝統を育み子どもも大人も
みんなが輝く 自然豊かな 下古田

福与区

伊那谷を一望する
ぬくもりの里 福与

上古田区

皆で一緒に楽しもう！ 上古田

長岡区

健やかに暮らせる
自然と歴史に育まれた 長岡

中原区

やさしさが、
みんなを家族にできる里 中原

南小河内区

古から伝わる伝統と築き上げた
暮らしやすさを未来につなぐ 南小河内

松島区

人や地域の個性を尊重し 未来ある
安心と安全の暮らしを創る 松島

北小河内区

地域が輝き笑顔あふれる 北小河内

木下区

大樹のもとに集い
世代を超えた絆でつながる 木下

(2) 区の将来像の見方

- 「キャッチフレーズ」は「区の将来像」の内容をまとめたものです。
- 「区の将来像」は意見交換で出された現状・課題から、10年後の区のあるべき姿を想定して作成しました。
- 「現状把握」では懇談会で出された意見やアンケートを参考にしながら、区で出来ることについて、現状と課題から検討を行ない作成しました。
- 「将来予測」は、町全体の箕輪チャレンジ型推計（2025年に24,509人）とほぼ同様の作業により人口を予測しました。移動率については、各区の平成22年（2010年）～平成27年（2015年）の人口移動の実績から算出しています。
- 「課題整理」については「現状把握」の中から特に課題とすべきものをまとめました。
- 「主な取組み」は「課題整理」に合わせて、取り組むべき事柄をまとめました。

区の将来像

沢区は、地域の守り神としてのふきはら路原神社を代表に、歴史を大切に伝えてきた地域です。書庫には過去からの重要な資料が保管され、区の生い立ちや習慣を共有してきました。公民館には110代に及ぶ歴代区長の名札が掲げられ、区政も120年を超えるなど、人のつながりと歴史を大切にしてきたことが伺えます。

私たち沢区では、これまでも人と人が顔を合わせて話し合い、共に活動してきました。そして、先人が築き上げた歴史や伝統を次世代に伝え続けてきました。今後、少子高齢化等の新たな時代を迎えても、次世代に引き継ぐための力を保つことが出来ると信じています。

私たちは、これからも常会や組の活動を基本に、人と人が顔を合わせ、対話する機会を大切にするとともに、その活動を通じて人材を育てます。

現状把握

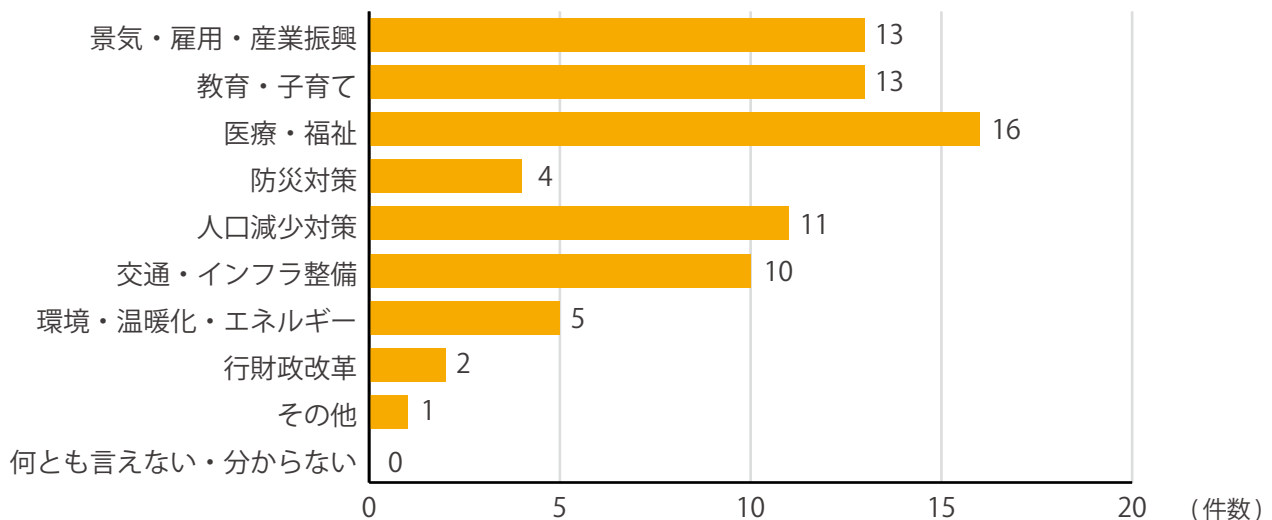
人口：4,058人・高齢化率：28.2%（2021.4.1現在）

沢区の現在人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
2021年	556人	2,357人	1,145人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・公民館が昭和50年～昭和60年の建物だと思われるため、耐震診断をしてもらえないか。
→昭和55以前は耐震性がない可能性がある。改築・新築する場合は、町の「集会施設改修事業補助金」が使用できる。
- ・昨年、大雨が降って高齢者避難指示レベル3となり、4～5軒集まった。長田地域から区の避難所までは非常に遠い。長田地域に避難する場所ができないか。
→避難所を長期運営していくことを考えると、区や職員を動かさなければならない。また、避難所を増やしすぎると課題も出る。公民館だけではなく、企業等にも応援を求められるような対策を考える。
- ・ハザードマップについて。自分の家は土石流危険区域に入っていなかったが、国土交通省のハザードマップを確認すると危険区域に載っていた。確認して欲しい。
→国土交通省のハザードマップは、土砂災害危険箇所調査による土石流危険渓流の範囲が示されている。町の防災ハザードマップに間違いはないが、危機意識は広くもってほしい。

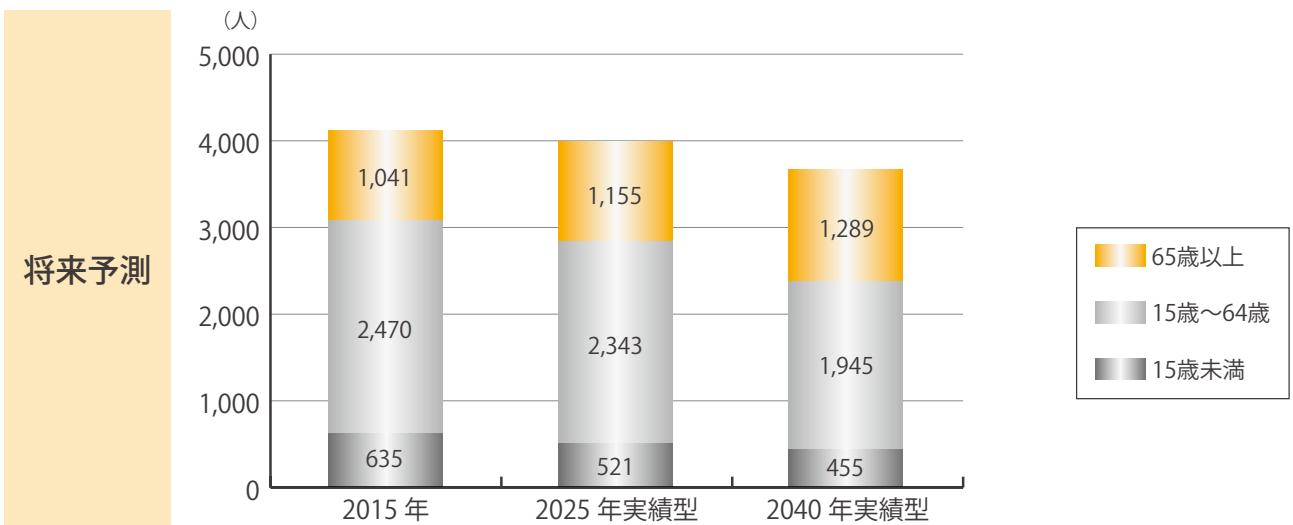
②町政アンケート



③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・ 書庫に沢の古い資料があり、昔は区民が勉強し、情報を共有していた
- ・ 出不足金制度がなくても、区活動へ参加する意識が高い
- ・ 運動会は多くの人に参加できるよう工夫している
- ・ 新しく入った人との交流ができ、次世代に伝統を伝える力がある
- ・ 沢が発展したのは最近だが、古くからの取組みが続いている
- ・ 親分肌のベテランが活躍し、区のルールやマナーを次世代に伝えている
- ・ 連絡事務嘱託員は区や町からの依頼が多く、負担が大きい
- ・ 定年延長、勤務体系の多様化により地区の活動が制限される



課題整理

- 定年延長、勤務体系の多様化により活動時間に制限があり、区や常会の役員となり手不足、また行事への参加が難しくなっている
- 交流の機会がある一方で、参加者が固定化する傾向がある
- 高齢化や核家族化の影響を受け、区の役員や行事が負担と感ずる場合もあり、常会未加入者が増加

主な取組み

- ・ 自然に対話が生まれ、次世代が育つ機会をつくるため、これまでも常会等で続けてきた話し合いの場を大切にします
- ・ 年齢や性別にかかわらず、活動には区民全員が参加できるよう工夫します
- ・ 高齢化や核家族化が進んでも区や常会との関わりを保つため、役員業務や共同作業等の負担軽減など、新たな仕組みを検討します

区の将来像

大出区は、1200年前の奈良・平安時代頃から続く歴史ある地域です。この地の豊かな自然と肥沃な大地は、様々な産業の立地としても恵まれています。明治38年に大出出身の丸山友弥氏を中心に設立された“有限責任大出購買組合”は、農協の前身として地域の発展を助け、中箕輪農協設立の礎となるだけでなく、全国の農協運動の先駆けとなりました。

私たちは、先人が築いた奥深い歴史と豊かな自然のもと、隣近所と助け合いながら、地域の文化を育んできました。高齢化の進行が予想される新たな時代に対しては、恵まれた産業立地という貴重な資源を活かした産業の構築や、年代を超えた交流により、力ある地域づくりに挑戦していきます。

- ・子どもたちがここで暮らして楽しかった、充実したと思えるふるさとに
- ・若者たちがここで働き、子育てしたいと思える魅力ある地域に
- ・壮年層が生き生きと働き、地域の力となる人材を育成できる地域に
- ・高齢者が心豊かな人生を送れる地域に

現状把握

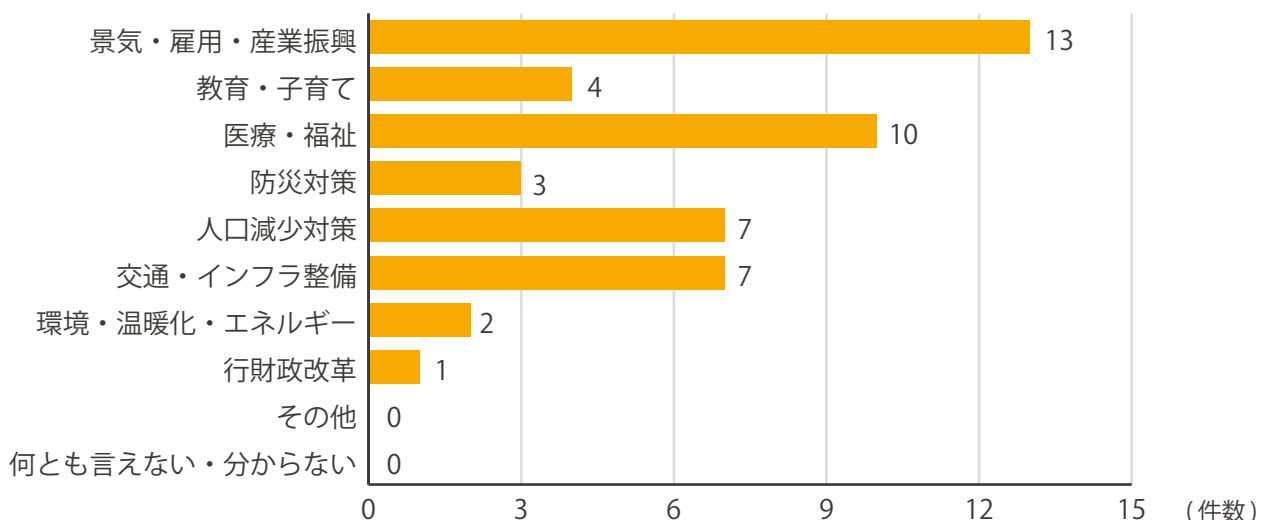
人口：2,078人・高齢化率：30.4%（2021.4.1現在）

大出区の現在人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
2021年	253人	1,194人	631人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・西山の「としまの森・みのわ」をきれいに整備して頂いたので、活用していただきたい。観光に取り組んで、区にもお金が落ちるようなことができないか。
→豊島区にご協力いただき、5年計画で伐採整備を行っている。オートキャンプ場や公園などとして活用したいと考えている。
- ・みのわメイトというアプリを使って区の連絡や、班単位の連絡が簡単にできる方法があるか。
→みのわメイトはマイグループでいろいろな設定ができ、居住区、常会ごとのグループでも情報のやりとりができる。任意設定をしたグループ内での連絡もできるようになっている。ただし、管理者等の設定が必要になり、個人情報の取り扱い等について一定の決まりを作る必要もある。
- ・南小河内伊那松島停車場線の山口地籍に旧屯所の小屋があり、傾いていて危険な状態。総務課に相談に行ったら、壊してもよいと言われたが、区で壊すには予算がかかる。
→解体については地域活性化交付金が活用できる。新規建築予定が防災施設であれば消防施設等整備補助金の活用もできるので、検討をお願いしたい。

②町政アンケート

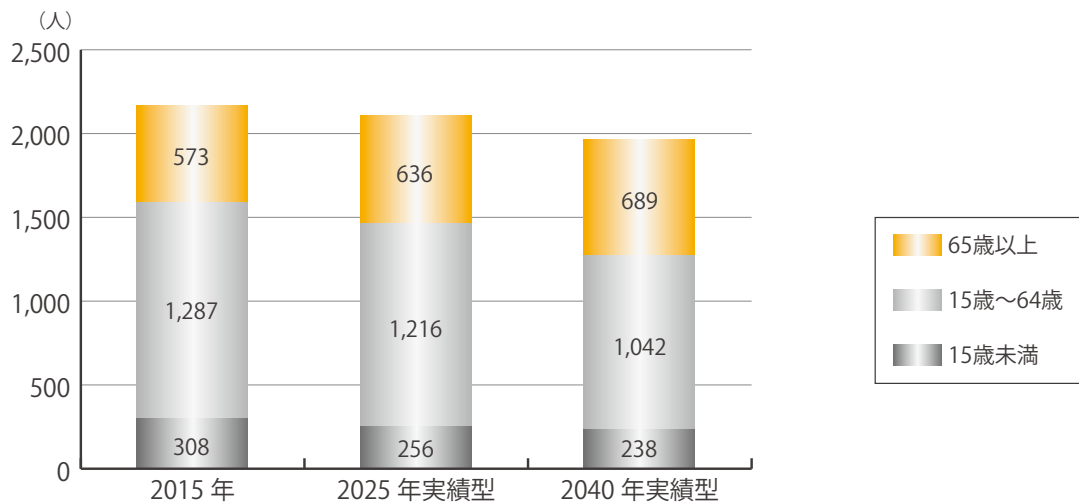


③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・古くからある大出地区と半世紀ほど前に開発された山口地区、2つの地区から現在の大出区ができた歴史がある
- ・多くの農家が兼業かつ高齢。水田を集約して個人委託やみのわ営農に頼らざるを得ない状況がみられる
- ・半数が転入者という構成だが、毎月19日に実施している合同会をとおして、組長から常会へ町・区の考えを伝える仕組みができています
- ・65歳以上の高齢者が30%を超えている

将来予測



課題整理

- 価値観が多様化する社会において、区や組のあり方、区役員の仕事内容の精選、なり手不足への対応等、区政のあり方を検討する時期に来ている
- 高齢化の急速な進行により、一人暮らしの高齢者や空き家が年々増えている。町全体の課題でもある
- 若い世代の夫婦にとって、魅力的に見える施設や自然環境を生かした空間が大出区にない
- 一部のわずかな専業農家（果樹・酪農）以外は、耕地面積が狭い水田兼業農家が多く、農業での経営は難しい地区である

主な取組み

- ・コロナ禍を考慮した区の活動や対応を考える。区としてやらなくてはならないことを検討して、思い切った精選等により区役員の負担軽減を図ります。また、区内の意思疎通を図っていくためにも、毎月19日の合同会は継続していきます
- ・ひとり暮らしの高齢者への組内での支え合いマップを推進するだけでなく、満足感をもった生活ができる仕組みを、コロナ禍で活動が少なくなった公民館活動で考えます
- ・子育て世代の夫婦に対して、町と協力して、平林公園の環境整備と大出区への大型遊具の設置を進める。また、空き家を調べ、豊島区との連携で生かしていけるか町と検討します
- ・大人たちから子どもたちに、積極的に「おはようございます」「こんにちわ」など、場に合った言葉を声かけして、明るい地域にしていく。子どもたちの気持ちだけでなく、大出地区の一体感を育てます

区の将来像

八乙女区の歴史は古く、五輪遺跡等に見られる縄文時代中期まで遡ります。室町時代には既に「八乙女」という地名で呼ばれ、江戸時代から続く正八幡社は通称「お宮の森」として、長年に渡って区民を見守り続けています。

近年では、八乙女区誌の発刊や、「史跡歴史マップ」を設置するなど、八乙女区の歴史や文化は現在も脈々と私たちに受け継がれています。

私たちの暮らしは、古くから暮らす区民と、この地に移り住んだ区民とが共に手を取り支え合い、この地を慈しむことにより育まれてきました。

私たち八乙女区民は、先人たちにより培われた自然や文化を守り、行事や活動を通じて歴史ある八乙女区の習わしを後世に伝えるとともに、世代を超えた絆を深め、暮らしの中で人がつながる区を目指します。

現状把握

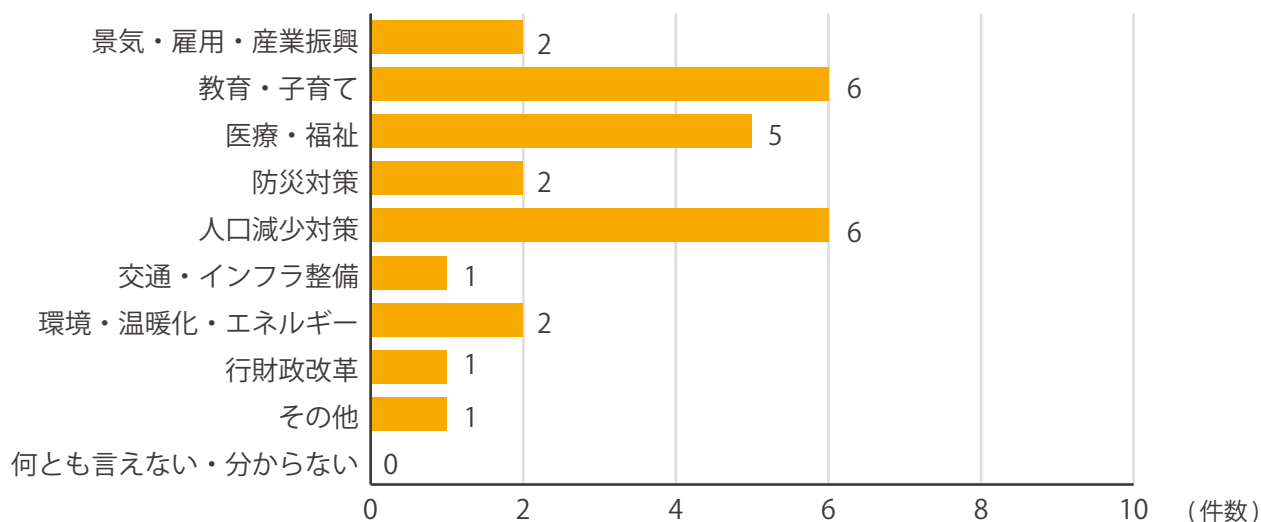
人口：493人・高齢化率：28.6%（2021.4.1現在）

八乙女区の現在人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
2021年	58人	294人	141人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・みのわメイトについて。八乙女区の住民はどのくらい参加しているのか。
→町全体での把握となるが、約7,000人が登録している。多くの人に利用していただきたいが、コロナ禍の影響で操作を伝達する方法がない。広報誌には載せているが、高齢者の方には直接説明したい。
- ・八乙女区の水路橋をできるだけ存続させたいので、町の協力をお願いしたい。
→数年前に橋梁長寿命化の点検をし、現在は6tまで利用可能である。古い橋のため、定期的な点検が必要となる。当面は現状のままとなるが、今後考えていかなければならない問題だと思っている。
- ・生産年齢人口の変化について。男女の人口数に差があるのは、女性が箕輪町を出ていく確率が高いからと思われる。女性が区に定着するような働き場所などはないのか。
→男性が多いのは、製造業が多いからだと思われる。女性は定年退職で戻ってくる人が多い。製造業でも女性が活躍できるような環境を増やし、雇用の場所や住宅などの確保をする必要がある。

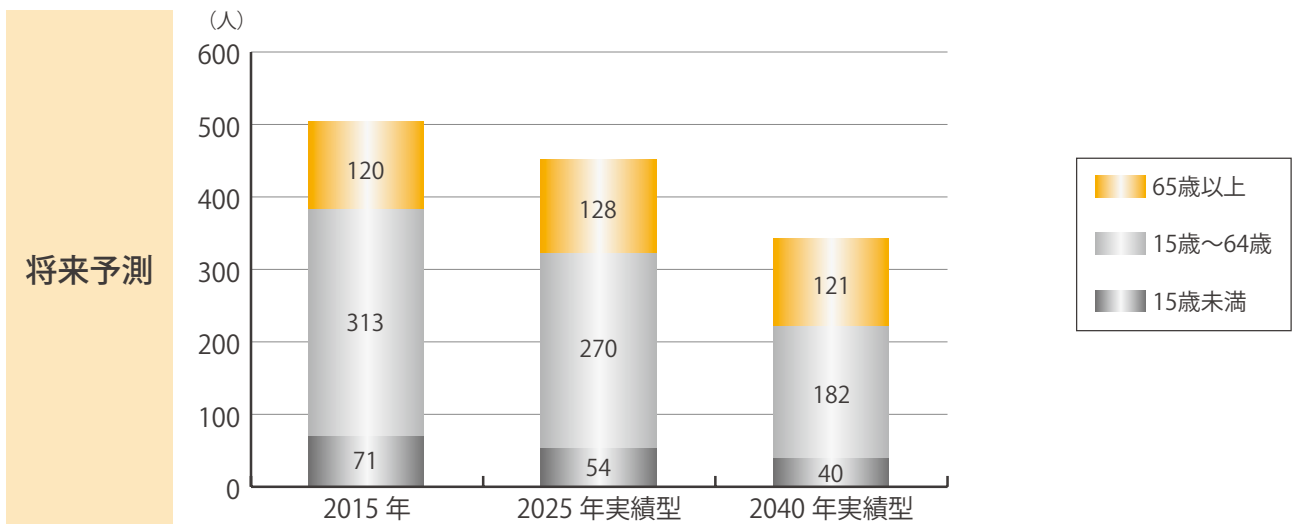
②町政アンケート



③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・2040年の区の人口減の予想により、その食い止めと、空き家対策の必要性
- ・みのわメイトを始めとするスマホ利用による区情報の発信により、区の活性化を図る
- ・南箕輪村への移住者が多いが、町・区としての対応はどうすべきか
- ・水路橋の存続と芝グラウンドの維持管理を
- ・女性（特に若い方）が町外に出ていくのを、どのようにして防ぐか
- ・小学生の通学路整備と、通学路の徐行運転のための方策
- ・中学生の通学で町道1号線を信号や横断歩道のないところを渡る現状があるため、町道1号線の歩道を整備しなおし、自転車を含めて通学時に使用しやすくする



- 課題整理
- 伝統技術や文化を継承する機会が減少し、地域の伝統・文化の継承が困難
 - 人口減少・少子高齢化による区活動への影響と、毎年同じことを行う行事のマンネリ化
 - 高齢者が住み慣れた場所で、寄り添っていきいきとした生活ができるよう地域ぐるみの支援が必要
 - 若い人たちを含めて区の活性化に努めるために、スマホ利用による情報発信を行う

- 主な取り組み
- ・ 行事、寺子屋、区史等を通じて区の習わしを後世に伝え、水路橋やグラウンドを維持管理します
 - ・ 八乙女オリンピックに代表されるように、区民全員で参加できる取組みを行い、魅力ある区をつくります
 - ・ 高齢者を温かく包み込む活動と、子供たちが安全・安心に過ごせるように公園や通学路を整備し、支援します
 - ・ みのわメイトを始めとするスマホ利用により、区の情報を発信し、活力ある区を目指します

区の将来像

下古田区は、天竜川西側の高台に位置し、町内の中でも南アルプスや中央アルプスを眺めるのに絶好のビューポイントが多くある地域です。

区内には、町の天然記念物でもある白山神社の社叢を始めとする良好な樹林などの自然環境が残っており、自然の豊かさや安らぎを感じることができます。

区では、区民が参加するお正月の賀詞を述べる会を始め、ほんだれ様や万灯といった伝統的な行事を長く受け継いできました。

最近では人口減少の影響で、豊かな自然を体験する機会が減ったり、行事を継続することが難しくなっています。今後は、少子高齢化がさらに進行すると見込まれているため、行事の継続ばかりでなく、区の体制維持が極めて難しい状況も予想されます。

私たち下古田区民は、これまで受け継がれてきた行事や資源を活用できるよう、知恵と工夫により継続、保全等を図ります。そして豊かな自然の中で区民同士がつながり、子どもたちが元気に育ち、誰もが歳をとっても健やかに暮らせる区を目指していきます。

現状把握

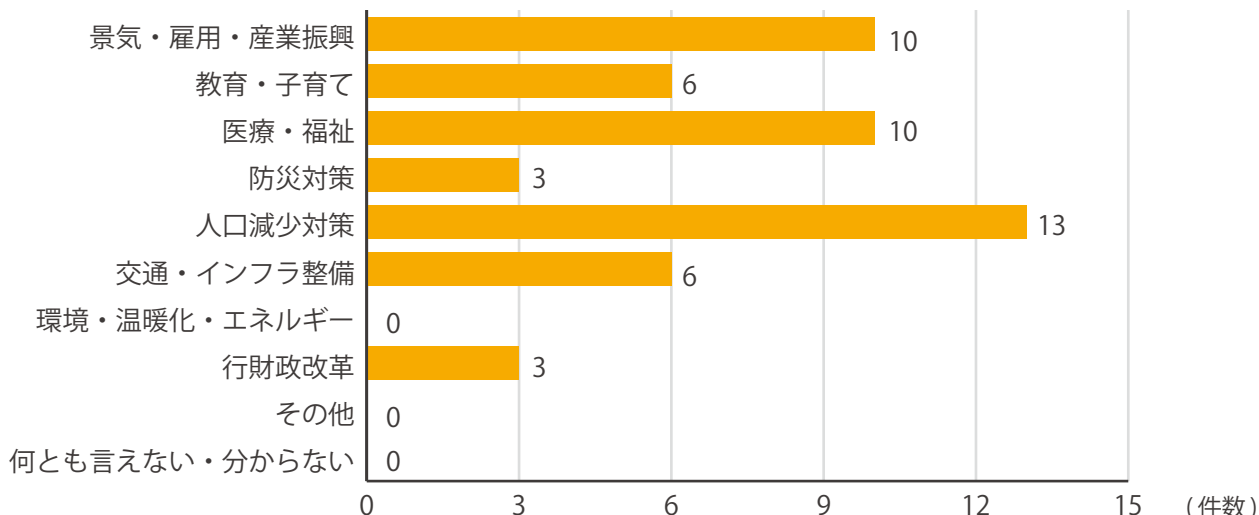
人口：303人・高齢化率：38.6%（2021.4.1現在）

下古田区の現在人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
2021年	37人	149人	117人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・近くに総合病院がない。個人病院はあるが、産婦人科などは町外の大きな病院にいかなければならない。
→町内の個人病院をあたっているが、なかなか医師がいなため総合病院の設立は難しい。助産師はいるが、出産できる助産所もほとんどない。町としては医師がいれば、補助も含めて検討したい。
- ・農業などの機械化が進み、働く人たちの姿が減った。親子で仕事ができる場所があれば、子どもたちが仕事の跡継ぎにもなり、県外の方達にも「田舎っていいな」と思ってもらえるかもしれない。
→地域のまとまった施策を区の将来像に入れていただければ、町としても対応できると思う。
- ・下古田区は区費が高く、住民への負担になってきている。人口も減少し、役員等の負担も増加している。町の支援があれば、下古田区に人が集まる環境ができるのではないか。
→区を運営する中で、区費などは大きな課題となっている。特に若い人たちが区や町への関心が薄い。これから先、区費については区で検討してほしい。区の構成や常会の構成も考えていかなければならない。

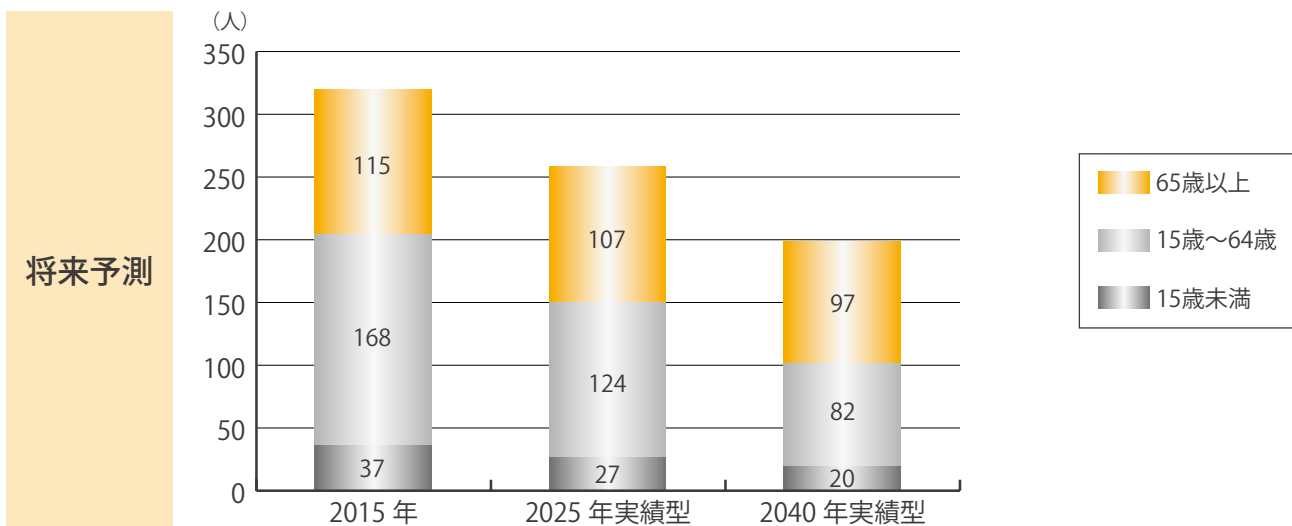
②町政アンケート



③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・高齢者で知らない顔はいない
- ・小さい子ども同士で遊ぶことが少ない
- ・特に展望台からの眺めが良い
- ・多くの若い人たちが地域活動に参加している
- ・高齢者がみんな元気で畑作業や地域活動に参加している
- ・区役員を経験された方々が地域活動の様々な場面で活躍している



課題整理

- 行事継続の困難さによる区民同士の交流機会の減少
- 自然環境の豊かさ、自然との触れ合い機会の減少
- 役員・消防団員の確保、区の事業継続及び体制維持
- 一人暮らしの高齢者の増加
- 耕作放棄地や空き家といった管理されていない土地や建物がある

主な取組み

- ・ 区内の資源や耕作放棄地を利活用できるよう、区内の魅力を再発見し、区民で共有します
- ・ イベント内容や開催時期の見直し、検討を行いながら行事を継続し、高齢者や子どもも含めた区民の交流機会の維持・創出をします
- ・ 子どもたちへ自然環境の大切さや豊かさを伝える機会を創出します
- ・ 区の事業継続・体制維持のため、区行政のあり方や仕組みを検討します
- ・ 一人暮らしの高齢者の安否確認を行います

区の将来像

上古田区は、広大な里山を背景に、美しい山々を望める風光明媚な地域です。里には古くから地域のよりどころとなっている古田神社や、県選択無形文化財である古田人形が受け継がれています。

豊かな自然資源や文化資源を活かした活動も盛んです。活動を通じ、赤そばやハナモモ、カタクリ、アサガオなど、里の美しさを演出し、上伊那地域でも多くの人を訪れて楽しめる場所となりました。

私たちは、自然と文化が地域の活動によって守られ、受け継がれたことを知り、後世の区民にも同じような豊かさを伝えるため、先人が工夫してきた上古田にあったやり方に磨きをかけ、みんなと一緒に楽しめる古田の里をつくります。

現状把握

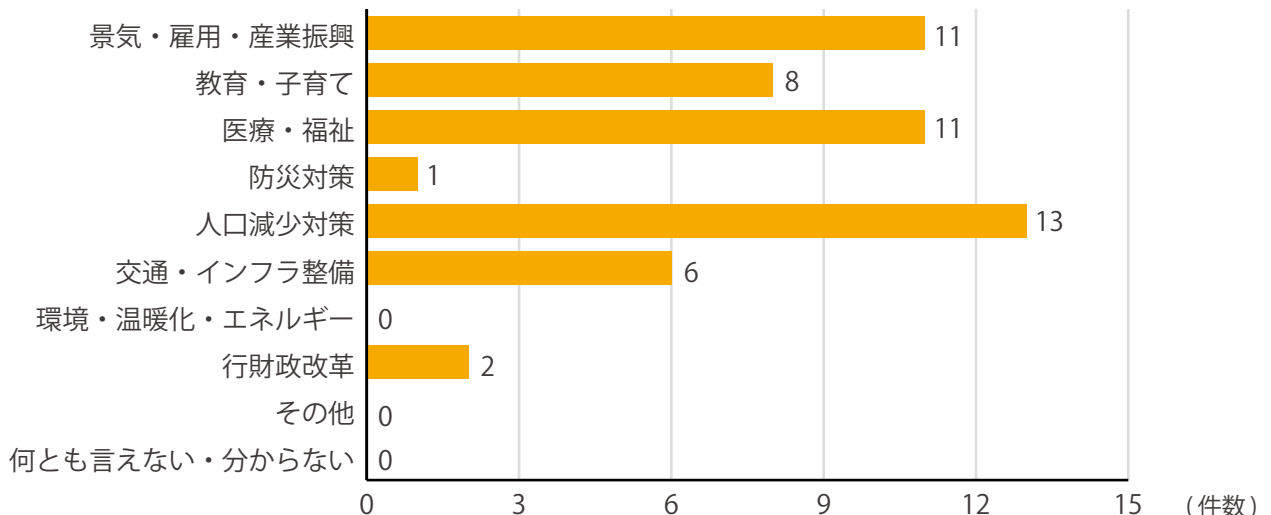
人口：693人・高齢化率：35.5%（2021.4.1現在）

上古田区の現在人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
2021年	88人	359人	246人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・県道 203 号与地辰野線の交通安全対策について。深沢から上がったところにグリーンベルトがあるが、その先のカーブが見通しも悪く、自動車、通学児童の危険が高い。
→県道 203 号与地辰野線については幾つか改良しなければならない。箕輪西小学校を下りた帯無川や、学校下から深沢川までの間、富田区の線形と側溝のところ、長田地域から春日街道に降りていく道路など。町としては歩道設置か歩道型を作るか県と調整している。来年度は測量から入り安全な道にしたい。
- ・区には防災無線が3箇所あり、お知らせ放送等にも使用している。だが、別々に発信されるため2年程前から聞こえないという苦情がある。何とかできないか。
→補助もできるが上限金額120万以上だと持ち出しになってしまう。町の防災は別系統のため、電波の関係でも難しい問題となる。みのわメイトを使用していただければ、お知らせを見られるようになる。
- ・赤そば畑の里の近くで、深沢川から下りたところの桜の根に、200mくらいの深い溝ができています。雨が降ればまた起こるかもしれないが、土砂で抉れていて危険な状態のため、緊急に対応をお願いしたい。
→桜の木については仮復旧済。一般会計補正予算（第6号）を使って上古田区へ原材料支給し、対応する予定である。

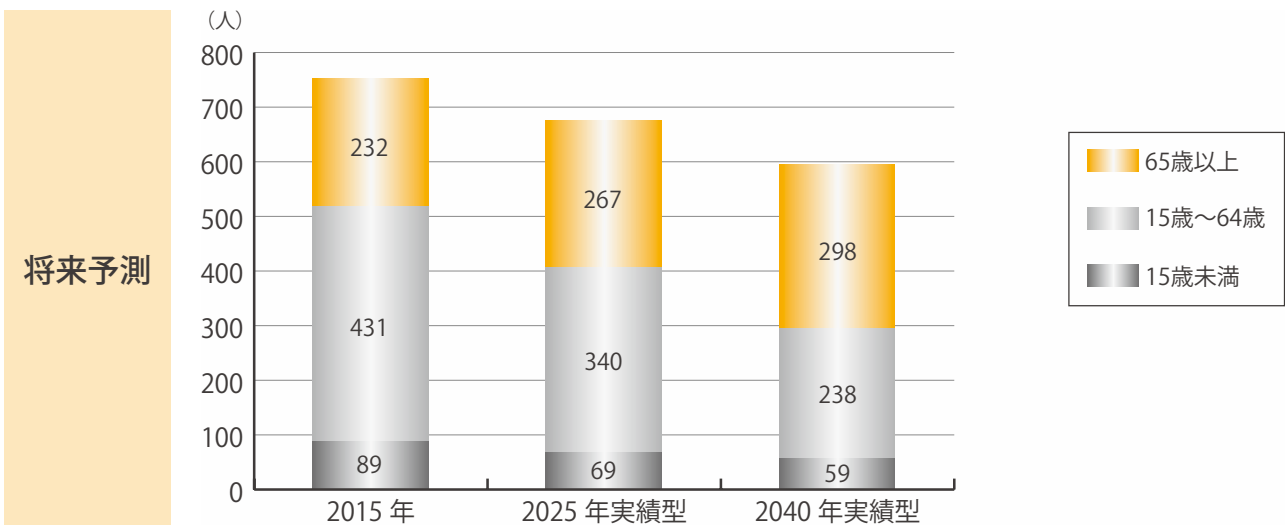
②町政アンケート



③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・自然が豊かで空気も澄み、西山からの山々の眺望は、距離もほど良く絶景
- ・環境が良く（花桃や赤そばなど）、保育園と小学校が区内にある
- ・上伊那の観光スポットになっている
- ・土地が安い
- ・江戸中期から続き、県選択無形文化財の古田人形がある
- ・整備された農地、100haを超える区有林、帯無川などの貴重な水源地を有す
- ・役員や行事への参加は濃い付き合いができ、屋号や人柄、習慣が自然と分かる
- ・人柄が温和で、高齢者も元気
- ・自主的に様々な活動が行われており、それぞれにリーダーがいる
- ・ボランティア活動が盛んで、高齢者の参加も多く、交流も盛ん
- ・そば文化がある（美味しい蕎麦が採れる…名人がいる）
- ・転入する世帯や、子世帯が加入している
- ・空き家が増加している



- 課題整理
- 区の人口が少なく高齢化も進行しているため、将来の役員の負担増が懸念
 - 貴重な文化遺産や豊かな自然を将来につなぐことが必要
 - ライフスタイルの多様化により、区政への関心が薄く、これまでの慣例を見直す必要がある

- 主な取組み
- ・人口が減っても上古田ならではのやり方を後世につなぐため、役割や行事等のあり方を検討します
 - ・区民それぞれのライフスタイルや価値観を考慮しながら区政への関心が高まるよう、参加しやすい行事を目指します
 - ・貴重な文化遺産や豊かな自然を有効に活用し、これまでの活動に、団体間の連携や協力等も加えながら、新たな楽しみを見つけます

区の将来像

中原区は箕輪町のほぼ中央に位置し、帯無川沿いの立地が、緑豊かな風景を形成しています。中原区は、他の区と比べ人口規模が小さいため、区民のまとまりのある小回りが良い区です。一方で、価値観やライフスタイルが多様化してきたため、顔の見えるお付き合いが徐々に難しくなっています。

しかし、時代が変わっても、中原区ならではのまとまりの良さを大切にして、子どもからお年寄りまで、お互いを気遣うやさしい気持ちを育てていくことが望まれます。

そして、お互いを支え合うことで「互助」「共助」を生み、やさしさをみんなで創り、区民みんなが『家族』といえる地域を目指します。

現状把握

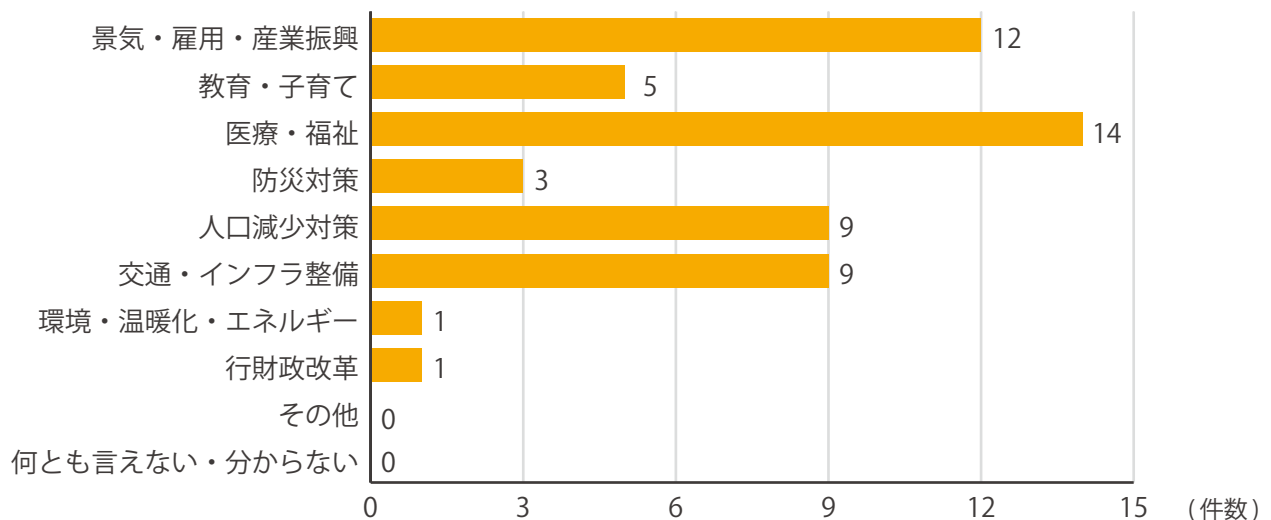
人口：348人・高齢化率：26.1%（2021.4.1現在）

中原区の現在人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
2021年	47人	210人	91人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・中原区の第一次避難所は公民館。他は中部小学校になっているが、年配者の避難が難しいのではないかと。他へ柔軟な避難ができないか。分散避難として避難場所を増やせないか。現在中原区では、避難所としてJA上伊那の施設の利用について要望している。
→コロナ禍の影響により、分散避難を増やす傾向になってきているが、数を増やしすぎると管理が難しくなる。災害に対応ができなくなることもあるため、管理のバランスを見ながら検討する。
- ・中原区の水路は中原区内及び松島区へ供用するため水路が長い。平成の中頃までは、区役員でU字溝の改修工事を行ってきたが、時代とともに出来なくなり町へ要請してきたが途絶えている。
- ・中原区の信号機より少し西の水路のグレーチングを直したが、大雨の時に水が溢れて隣接する宅地に水が流れ込んでしまった。急きょ、土のうを持ってきて対応したが、側溝の蓋から上に水が吹き上がるという現象が起きている。解決策ということで早急に対応していただけないか。
→すぐに建設課と相談をする。工事に起因することであるといけないので調べる。

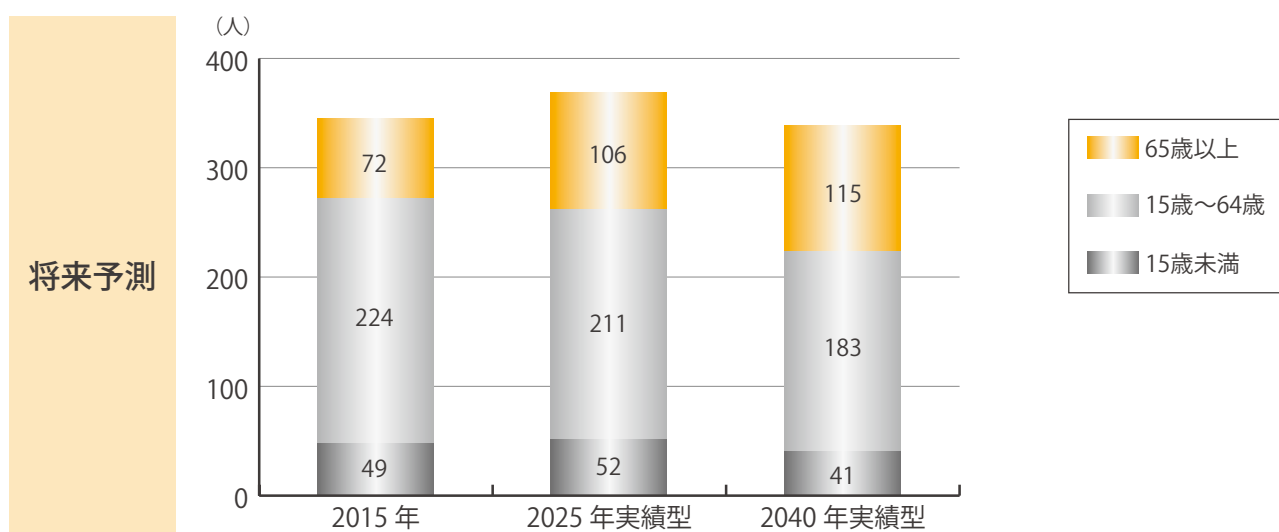
②町政アンケート



③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・元気なお年寄りが多く、若い世代や子どもたちも活動の場を求めている
- ・納涼祭や河川整備が、良い交流の場となっている
- ・小回りが利く回転しやすさ（行事のやりやすさや、情報の浸透しやすさなど）があり、外の人を受け入れる雰囲気がある
- ・小規模区ならではの人の距離の近さや、顔の見えやすさがあり、まとまりやすい
- ・「中原の未来を考える会」を発足し平成 27 年度検討を始めた
- ・昔と今では子どもの育て方も違い、育児の悩みを抱える人も多い
- ・万燈を復活し、文化の伝承を行っている
- ・区の行事に協力する任意の団体が活動している（親和会など）



課題整理

- これまでに培った小回りの良さやまとまりの良さが、高齢化の進行等により継続できなくなる可能性がある
- 高齢者の増加や人口減少により、区役員の負担が増加
- 異なる世代や転入者との交流が希薄
- 新規転入者に区に入ってもらえない

主な取組み

- ・小回りの良さやまとまりの良さを活かし、高齢者を支えあう仕組み等を整えます
- ・区役員の負担を見直すなど、区の役割分担等を検討します
- ・子育て世代やお年寄りの世代、在来者（正区）や転入者（準区）など様々な人が集まって、中原の未来を考えます

区の将来像

松島区は、上伊那郡で唯一の前方後円墳である松島王墓古墳があり、1,400年以上もの歴史を持つ地域です。江戸時代の宿場町の発展や明治時代以降の公共機関や商店等の集中によって、町の政治・経済等の中心的機能を担うようになりました。今でも小中学校などの公共施設があって利便性に優れていることもあり、町人口のおよそ4分の1にあたる6,000人以上の方が暮らしています。松島区には、これまでも多くの方が移り住んできましたが、核家族化等でニーズも多様化しているため、39の常会では工夫を重ねて交流を続けてきました。また、保育園等、子どもを通じたお付き合いも大切にしています。

一方で昔ながらのご近所付き合いや、世代を超えたつながりも弱まっているため、今後は地域から孤立する高齢者世帯等の増加も懸念されます。

私たちは、常会の独自性を尊重し、多様な主体の活動を大切にしながら区のみとまりを作り上げ、町との連携も進めます。そして、子どもからお年寄りまで安全安心で、楽しみながら暮らせる地域を目指します。

現状把握

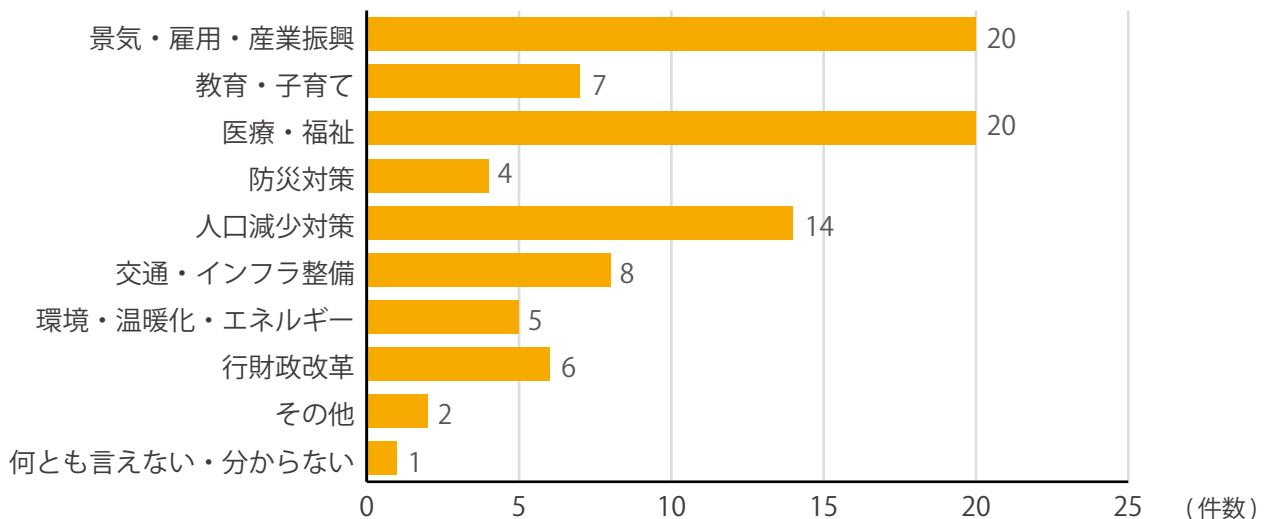
人口：6,144人・高齢化率：25.4%（2021.4.1現在）

松島区の現在人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
2021年	787人	3,794人	1,563人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・高齢者が増え、その方がいなくなると空き家が増えてくると思われる。空き家に対する町の対応について、具体的にどんなことを考えているのか。
→町内の空き家は概ね400戸あり、松島区は特に店舗併用住宅が多い。生活上問題のある空き家は解体し、できれば中心市街地をいろいろな人が活用していただけるようにしたい。
- ・情報発信について。みのわメイトは告知放送用として使われているが、他の活用も可能なのか。例えば地区のお知らせとかゴミの収集など。松島区内に向けた情報発信もできるのか。
→地域としても利用でき、スマートフォンが使えない方には個別受信機を使っている。ただし、コロナの関係で高齢者の皆さんに使用方法を教えることができない。活用してもらえる状況を考えている。
- ・豪雨で避難指示が出た時、避難の際に車をどこで止めるとよいのか。松島コミュニティセンターに300台も500台も止められない。水没から私財（車など）を守りたいというニーズに応える必要もある。
→洪水時の避難は、要支援者以外は、車での避難ではなく徒歩での避難を呼びかけるとともに、公共の場所を万が一の際の駐車場として利用できるよう検討する。

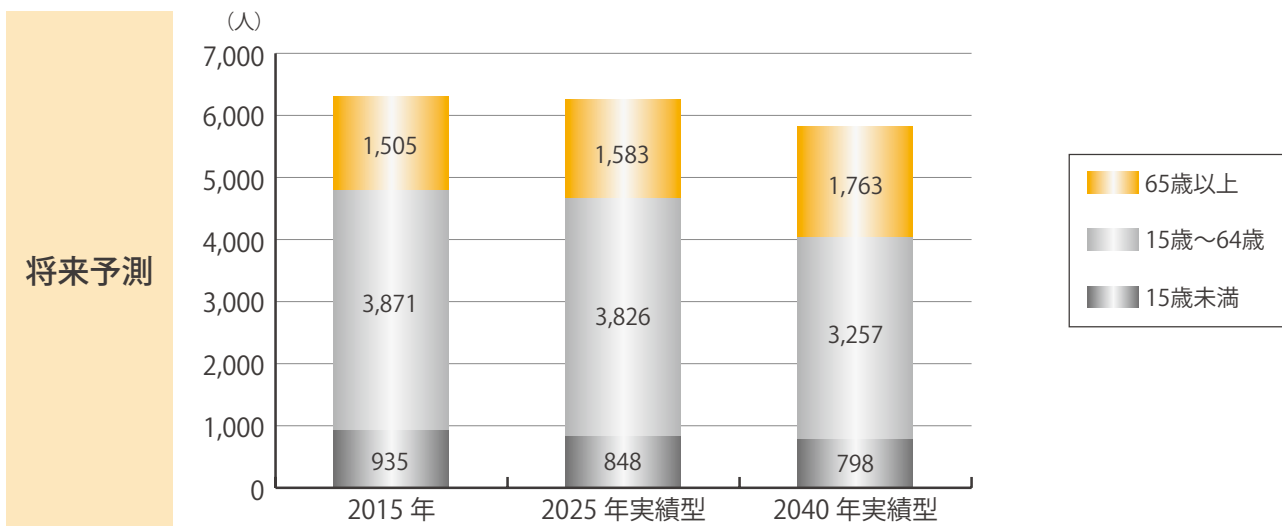
②町政アンケート



③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・39 常会があるが、世帯数が 12 から 100 を超える常会まで規模の差異が大きい
- ・戸数が少ない常会は役が毎年回ってくる
- ・常会に入らない世帯が増えている
- ・常会の年齢別人口構成を見ると、若年者がおらずになりそうな常会がある
- ・町部を中心に空き家が増えていて管理が行き届いていない
- ・区の規模が大きいので、災害時に全員が素早く避難できるか
- ・災害時に、動けない高齢者の避難が心配
- ・コミュニティセンターが避難所になっているが、災害時に混乱なく開設できるか
- ・区議会に女性議員がないので、女性目線の活動ができない
- ・区議の任期が 2 年の為、前年の繰り返しで終わってしまう
- ・伐採適期となっている区有林を有効に活用できないか
- ・町から依頼される仕事が多すぎる、区分けを考えた方がよい
- ・区から区民へ情報を出して区会の方針や仕事を理解してもらう
- ・町と区と関係団体がもっと連携して活動した方がよい



- 課題整理
- 常会が適正に活動できるような規模や役職を考える
 - 災害があっても、被害を最小限に留めるようにする
 - 地域の高齢者や支援の必要な人を、日常も災害時も助け合う
 - コミュニティセンターが避難所になった時、混乱なく避難者を受け入れる
 - 区議会の運営に女性の考え方を取り入れる
 - 区有林の活用など、区の活動全般を効率的に見直す
 - 区と区民の情報交換を増やしてゆく、紙から電子媒体に移行する
 - 町と区と関係団体がもっと連携し効率的に活動する

- 主な取組み
- ・将来にわたって常会の適正化を検討します
 - ・災害が発生しても被害が最小限となるように、避難方法と助け合い方法を訓練します
 - ・災害時にコミュニティセンターが避難所になるので、開設訓練を行います
 - ・区議会や関係団体の女性割合を増加させ、女性目線の活動を進めます
 - ・区と区民のコミュニケーションを密にするために、情報発信の強化を図ります
 - ・町と区と関係団体が連携し「オール松島」で連携強化していきます

区の将来像

木下区は、南宮神社や鹿頭行列、芝宮のケヤキ、帯無川上流のブナ林に代表されるように歴史・文化や自然の資源が数多くある地域です。また、山車飾保存会をはじめとした様々な自主的サークルや公民館活動などが行われ、区民の交流の場が数多くあります。

これまで人口増加により、大きな区になりましたが、近年ではご近所付き合いの減少など人とのつながりが弱くなっている傾向から、災害時などへの対応が心配されます。

多くの人の努力で長年受け継がれてきた伝統行事や様々な活動についても、少子高齢化によって継続することが困難になることが推測されますが、豊富な人材の活用により行事や活動を継続し、また地域の宝である子どもたちへ伝統や文化を伝えています。

私たち木下区民は、これからも豊かな自然の下、伝統と文化を大切にしてお人とのつながりを深め、子どもたちを区民全体で育み、全ての人々が元気で暮らせる、人の和があふれる区を目指していきます。

現状把握

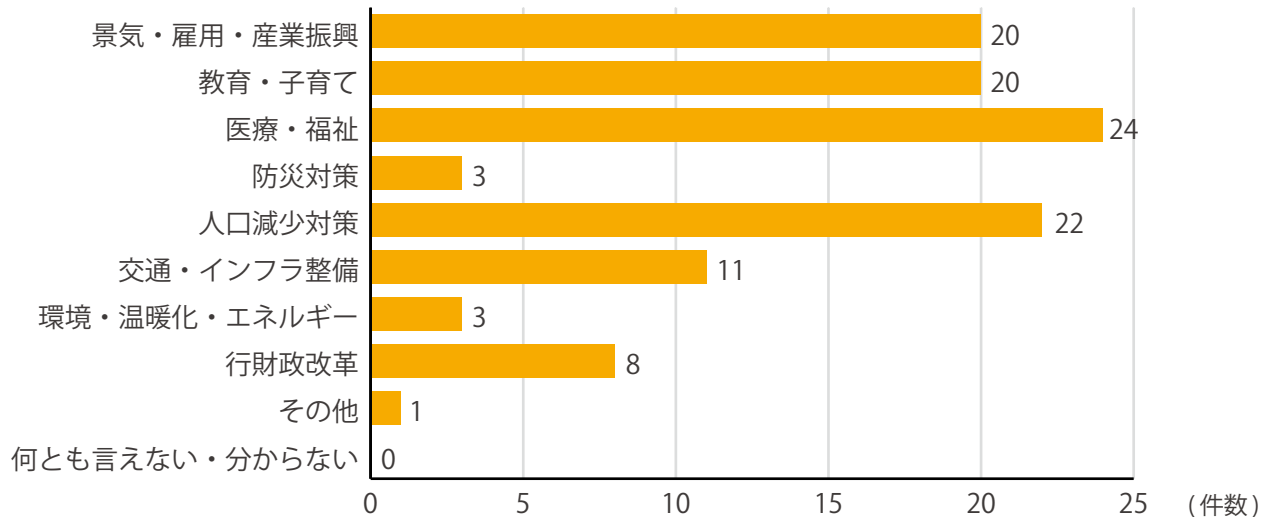
人口：5,371人・高齢化率：30.6%（2021.4.1現在）

木下区の現在人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
2021年	716人	3,012人	1,643人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・木下区に防災を兼ね、避難所としても使えるような多目的施設の建設をお願いしたい。多目的施設の設置検討委員会では、北城地域の西側に設置が良いとの検討結果が出たので対処してほしい。
→以前からの要望と承知しているが、施設を新たにつくるより、今あるものをどう使うかに力点を置きたいと考えている。多目的施設はJA支所の敷地の中へ入れていくということになった。
- ・10数年前に仕事を辞めて、体も大変だった時にありがたかったのは、箕輪町健康増進計画だった。減塩チャレンジなども健康に役立って、元気をもらったため、こういった啓蒙活動を更に進めていてもらいたい。
→健康づくり、介護予防は力を入れていきたいと考えている。しかし、今年は検診を受けてくれた方が例年の8割くらいしかいなかった。コロナの関係もあるが、さらに多くの人に受けてもらいたい。
- ・農業の振興について。水田だったところが草刈もされずに荒地になっている。そのような場所が年々増えている気がする。上手に活用し、農業をやりたい人に住んでもらうことはできないか。
→今の農業は後継者がおらず、転作や畦畔の管理等もあり、今のような状況になっている。若い人が農業をやりたいと思えるように農地を守る活動をする必要がある。定年後に始めて、拡大した人もいたので、そういう方たちにやっていただくなどと考えている。

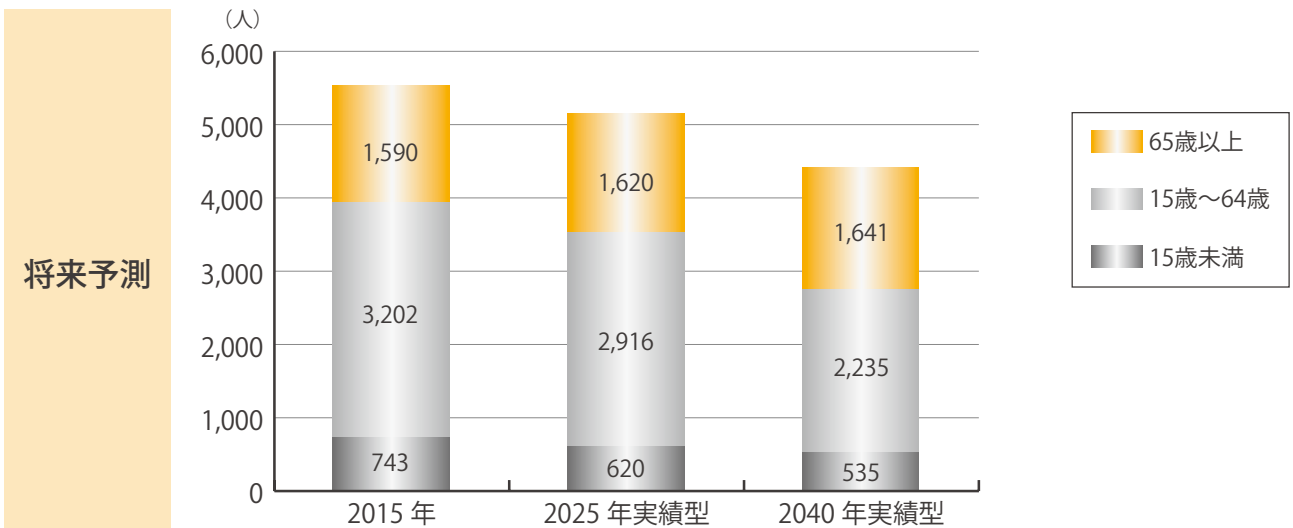
②町政アンケート



③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・お付き合いが減少している
- ・子どもたちはきちんとあいさつをする
- ・行事運営者が高齢化してきている
- ・人口は減少傾向にあり、高齢化率が上がっている常会と、転入等による若い世代が郊外で世帯を持つ常会のように、年齢と人員の格差が大きくなっている



将来予測

課題整理

- 近所のお付き合いの減少に伴う災害時などへの対応
- 行事や活動が盛んだが、参加する人が限られている
- 少子高齢化により、資源の保全、行事・活動の継続困難が予測される
- 空き家の増加による区や地域の雰囲気悪化

主な
取組み

- ・ご近所付き合いで絆を深め、災害時にも対応できる区を目指します
- ・多くの方が参加しやすいよう、行事や活動の取組み方・あり方の工夫をします
- ・豊富な人材の活用により、資源や行事・活動が維持できる仕組みをつくり上げます

区の将来像

黎明の東駒ヶ岳から昇る初日の出、冬の夕焼けに赤く染まる仙丈ヶ岳、夏の天空に輝く満点の星、澄んだ空気と樹林の緑の中を流れる清冽な水、富田区には心を癒す雄大な風景と恵まれた豊かな自然があります。

私たちは、小さい区でありながらも、お祭りや運動会などの行事や地域の集まり、ご近所付き合いなど人と人とのつながりを大切に暮らしやすさをつないできました。

少子高齢化により、区内でも健康が心配されるお年寄りの存在や子どもたちの育成が課題となっています。

私たち富田区民は次代を担う子どもたちを行事や自然とのふれあいを通じて地域で育て、これまで地域を担ってきた高齢者に対しては尊敬の念を忘れず、地域や区で支えていく暮らしやすい愛情があふれる区を目指します。

現状把握

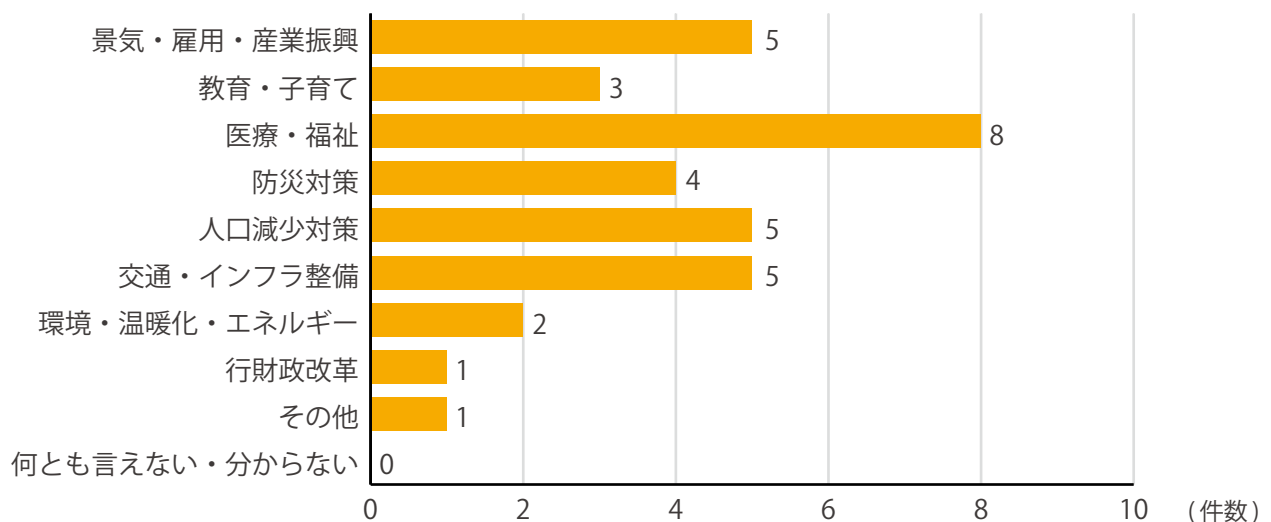
人口：377人・高齢化率：37.4%（2021.4.1現在）

富田区の現在人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
2021年	44人	192人	141人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・防災について。避難所である公民館が災害危険区域となっている。最近の災害や雨降りなど見ると、公民館へ避難していいのか判断が難しい。他に区の中で安全な場所はないか。
→中曽根区と連携協定を結んでいるので、中曽根公民館への避難は可能だが、避難に時間がかかるため、状況に応じて町で社会体育館等を第2次避難所として開設することを考えている。
- ・通学路の安全確保について。県道203号と地辰野線の整備改良は国・県・町が対応することになっているが、区や地域ができることはないか。民有地に通学路の幅を確保するなど、手伝えることはできる。
→地域でできることはありがたい。民有地だと用地の確保が難しいため、協力していただけると助かる。
- ・消防団について。富田区は去年入団した団員が3人だった。活動は多いが入団数が少ない。町でも入ってもらえるよう方策をお願いしたい。
→消防団については、行事減らしたり、出動手当を上げる等、町も尽力するが協力をお願いしたい。

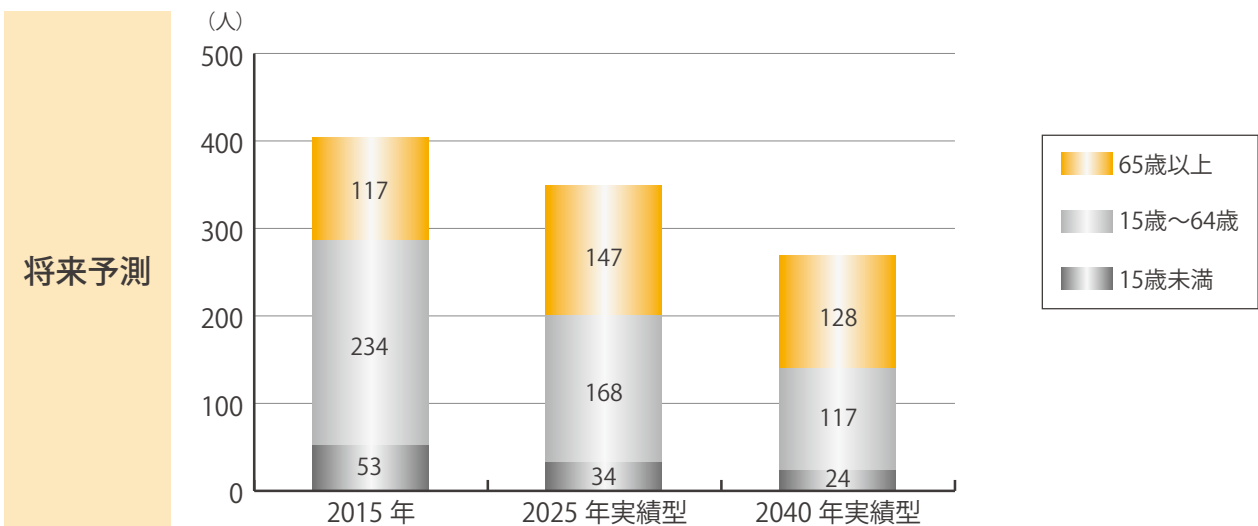
②町政アンケート



③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・近所で野菜をお裾分けしながら、高齢者などへの声掛けをしている
- ・玉ねぎの収穫祭や区民運動会、富田秋祭りなど、子どもが地域と関わる行事が開催されている
- ・SC活動を継続的に取り組み、安全や防災への意識が根付いてきている
- ・恵まれた豊かな自然が多く残っている
- ・区の財政面について、収入源がほぼ区費のみとなっており、厳しくなっている
- ・高齢化や担い手不足により、豊かな自然の維持が難しくなっている。また、それに伴い区役員等への負担が増加している



- 課題整理
- コロナ対策や新しい生活様式をふまえた、一人暮らしや認知症の高齢者増加に対する対応
 - 豊かな自然を活かし、地域愛や郷土愛が芽生える子どもの育成
 - 行事参加者の顔ぶれがいつも同様のため、地域全体の人と人のつながりに結びつかない

- 主な取り組み
- ・ 高齢者世帯に対しては地域や区で状況を把握し、近所や地域でゴミ出しや雪かきなどの助け合いを推進します
 - ・ 子どもたちの地域愛や郷土愛の醸成を図るため、豊かな自然や地域の方と触れ合う体験を継続して実施します
 - ・ 行事参加者の増加につなげるため、内容の変更や取り組み方を工夫し地域全体の人と人のつながりを強くします
 - ・ 区懇談会を実施して、区民の意見集約や現状認識の共有化を図り、区が一丸となって課題に取り組みます

区の将来像

中曽根区には江戸時代から続く獅子舞や権現桜と呼ばれ親しまれている樹齢 1000 年のエドヒガン、夏になると子どもたちのカブトムシ捕りでにぎわう北の林など歴史文化や自然に恵まれ、災害も少ない地域です。

また、いざという時にはお互いを助け合う、開拓地の精神を受け継いで人とのつながりを大切にしてきました。

近年では、高齢化が進み、人とのつながりの希薄化や区役員の担い手不足が課題となっていますが、伝統行事や作業を区民交流の大切な場と捉え、継続する努力を続けています。

私たち中曽根区民は、小さい区としての強みを活かし、誰とでもあいさつを交わし、家族のように人とのつながりを大切にして、笑顔でいられる心温かい区を目指していきます。

現状把握

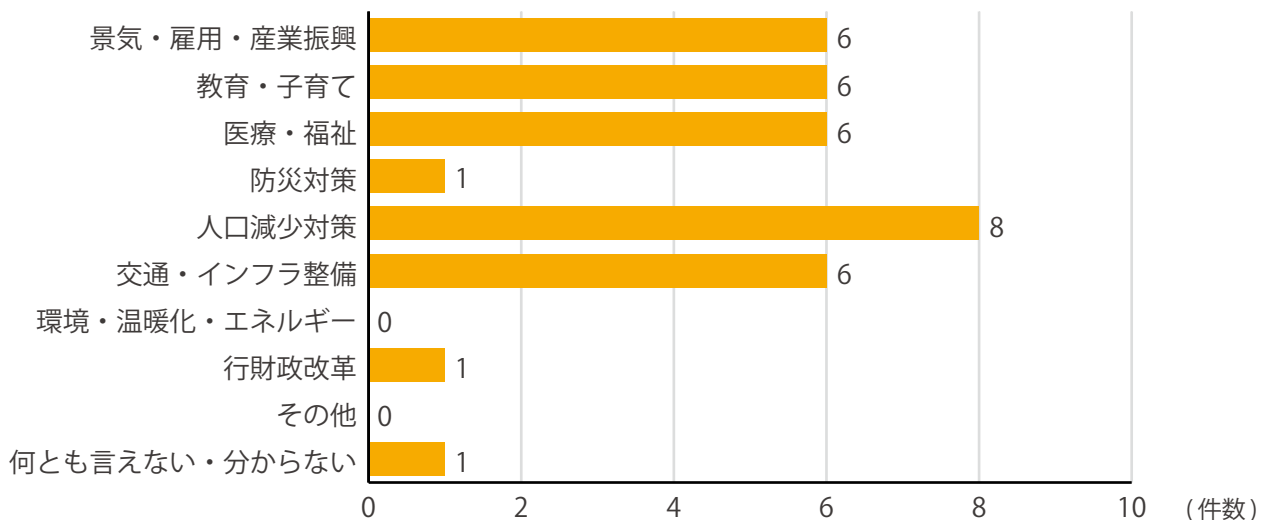
人口：301 人・高齢化率：29.6%（2021.4.1 現在）

中曽根区の現在人口	15 歳未満	15～64 歳	65 歳以上
2021 年	35 人	177 人	89 人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・一の宮公民館近くの道路がへこんでいて、大雨の際に流れてきた水のせいで子どもたちが渡れない状況だった。また、富田区から橋を渡る手前の県道 203 号と地辰野線に木が大きく成長して枝が垂れているところがある。子どもが道のすみを通って通学している。雪が積もれば折れたりして危険になる可能性もあるため、これらの整備をお願いしたい。
→県道 203 号と地辰野線を含め、通学路点検時に危険箇所を確認しながら進める。
- ・富田区から降りてくる道で、ふれあいの里から下りてきたところ。西箕輪の中学生が通学路で飯田・伊那広域農道を渡るが、なかなか車が止まってくれない。信号機の設置は難しいか。
→伊那警察署経由で要望を上げていく形になる。
- ・自分の子どもが家を建てる際に農振除外に苦労した。県や国だからやむを得ないが町としてももう少し書類が減らないか考えてほしい。
→農振除外は時間がかかる。優良農地として活用されているので、丁寧に除外手続きをする必要がある。個別の住宅、工場誘致等も難しいが住宅は建てられる。

②町政アンケート

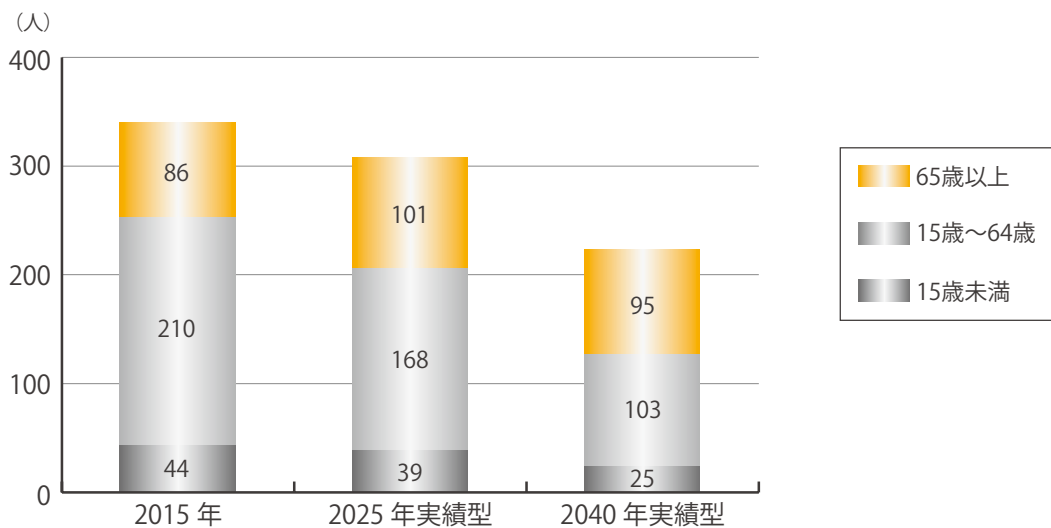


③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・近くに住みたいと思っている家族はいる
- ・跡取りが家を建てる時は区費・賦役の免除をしている
- ・女性の交流機会はある
- ・温泉で区外の人と交流がある
- ・酪農経営や営農組合の活動などの成果で荒廃農地は少ない
- ・豪雨による農地への浸水・通学路への流入対策が急務
- ・農業振興地域の名目変更手続きに時間がかかり過ぎる
- ・県道（広域農道）と通学路の交差点の横断歩道が目立つようなライン舗装等に改良工事ができないか
- ・人口減少を食い止める方法があるのか
- ・日赤奉仕団からのお願い、小さな区から団長を選出するのは困難

将来予測



課題整理

- 区内への移住希望家族の確保
- 高齢者世帯の増加、交流の希薄化
- 伝統行事や作業などの継続の困難
- 通学路の危険箇所の改良工事・水路、道路等の改良工事が、一部の地主さんの同意が得られないので進展が無い
- 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策
 多人数での行事・イベントが開催できない

主な取組み

- ・跡取りが区へ住む場合は区費・賦役免除の制度を続けます
- ・高齢者の状況を把握し、災害などの非常時に備えます
- ・行事や作業を区民交流の場として継続できる仕組みを検討します
- ・八幡社の周辺広場の整備・遊具の設置をします
- ・水路・排水路の整備や井浚を区民の賦役や役員人足で実施して多くの区民との交流を深めます

区の将来像

三日町区は、大自然と市街地、新しい活力と古くから伝わる資源や文化が共生した魅力あふれる区となっています。

三日町区は天竜川を挟み、東側は天竜川沿いに農地・住宅地が開け、河岸段丘を登ると、そこには歴史と暮らしが息づく自然豊かな農村風景が広がり、その先には信州のサンセットポイント100選に選ばれるほど雄大な景観を誇る萱野高原へと続いています。西側は、国道153号バイパスの開通により近年大きな発展を遂げており、商工業が集積し賑わいと活力ある地域になっています。

歴史と結びついた資源に恵まれ、御旅所、御府社、秋宮は、区民や氏子により伝統と文化を守り伝えてきました。毎年夏に開催されるサマーナイトフェスティバル（納涼祭）は、区民をはじめ帰省客など多くの人々に親しまれる行事になっています。

私たち三日町区民は、豊かな自然や伝統文化を守り、次世代に伝えていくとともに、区の行事や活動、子育てを通じて繋がる人と人とのふれあいを大切に、全ての区民が元気にいきいきと暮らせる区を目指します。

現状把握

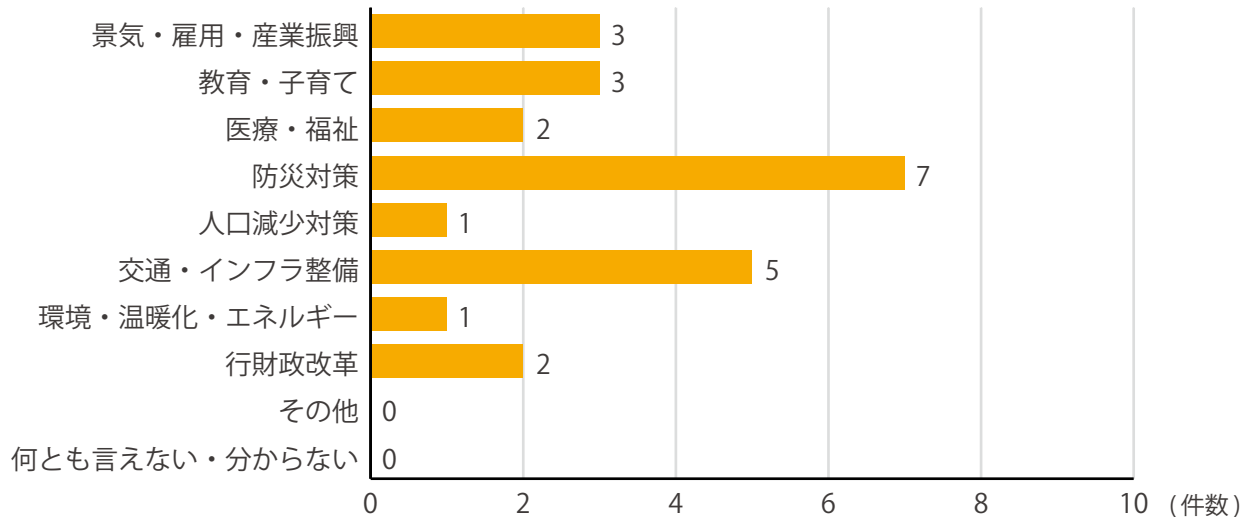
人口：1,116人・高齢化率：31.1%（2021.4.1現在）

三日町区の現在人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
2021年	168人	601人	347人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・田中城常会の生徒が遠回りをして学校に通っている。信号機、横断歩道の要望は出しているが対策をお願いしたい。
→喫緊の課題だと思っている。隘路あいろになっているところはいくつもあり、公安委員会、道路管理者と協議しながら、検討していく。
- ・三日町、福与、長岡の生産森林組合で里山の事業を行っていただいた。おかげで県道19号伊那辰野停車場線の山林がきれいに間伐された。5年間は地元の負担金なしで事業を進めていくが、5年後はどうする予定か。
→森林づくりの推進支援金で平成30年～令和4年までの5年計画で事業を行っている。その後については地元区など関係機関と相談させていただきたい。
- ・空き家の問題について。空き家を所有している者に解体費用の補助はないか。更地さらちになると税金が6倍になるため、解体補助金を検討していただければありがたい。
→三日町の空き家率は高いため、流通したりして宅地として使っていただきたい。補助金についても検討したい。

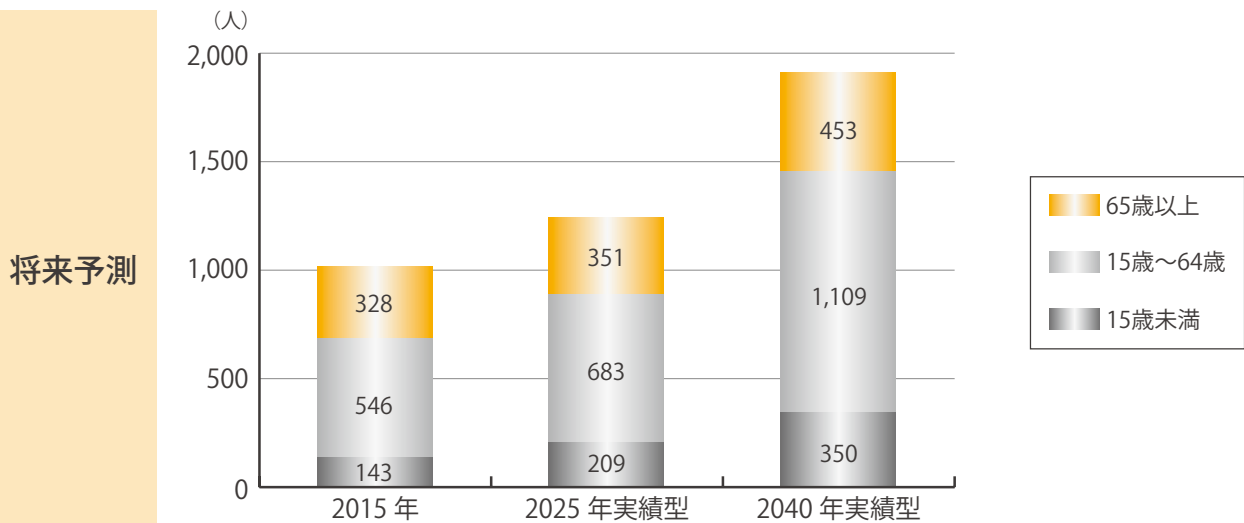
②町政アンケート



③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・田中城、みのわ園は人口増
- ・お年寄りがいると近所付き合いもある
- ・女性は近所付き合いが盛ん（いきいきしている）
- ・子育てを通したお母さんたちの繋がりがあ
- ・小学校までは同じ顔ぶれなので、どこの子どもかすぐわかる



将来予測

課題整理

- 区役員の高齢化や後継者不足による区民の負担増
- 新規移住者や若い世代の近所とのつながりの希薄化
- 常会未加入者への対応
- 災害時における区民の助け合い意識の向上
- 田中城は住宅造成が増加、雨水排水の対策及び道路整備の充実が必要

主な取組み

- ・区役員や区民の負担を考慮し、継続できる取組みを行います
- ・子育てや行事を通じ、ふれあう機会を大切にします
- ・高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりに取り組みます
- ・各常会及び区に加入される方が心地よく付き合える雰囲気を作ります
- ・防災訓練を通じ、防災意識を高め安全安心な地域づくりに取り組みます

区の将来像

福与区は、中央アルプス、南アルプスを見渡し、眼下に伊那谷を一望する優れた眺望景観に恵まれた自然豊かな地域です。美しい夕日が稜線に沈む姿、冬晴れの朝の澄んだ空気に映える山並みは、昔から変わらずに私たちの生活に潤いを与えてくれます。

私たちは、この地で先人たちから受け継がれた伝統や文化、温かく人を包みこむ風土を大切に育んできました。現在では、区加入率は町内一を誇り、近所、常会、世代を超えたまとまりのある暮らしやすい区へと成長しています。

私たち福与区民は、来るべき人口減少、少子高齢化社会を念頭に、次のような区を目指します。

- 1 誇るべき自然や景観を守り次世代へと伝えます。
- 2 互いに助け合い支え合うよき伝統を、世代を超えて守り繋げていきます。
- 3 諸課題には区民の英知を結集して取り組み「福」がもたらされる区を目指します。

現状把握

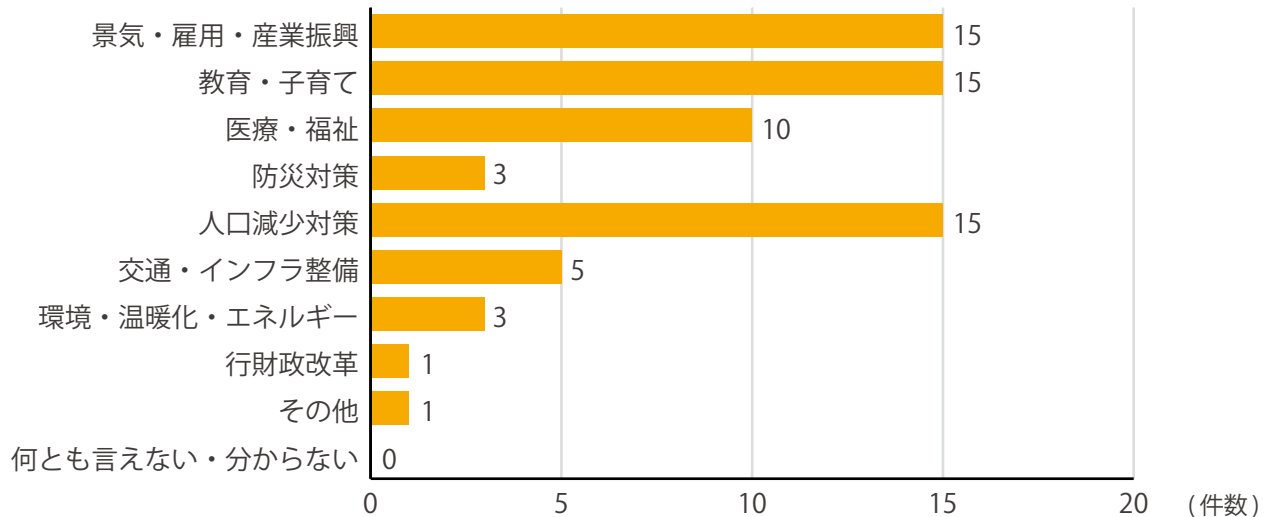
人口：720人・高齢化率：33.6%（2021.4.1現在）

福与区の現在人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
2021年	77人	401人	242人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・福与区に危険な場所はあるか。
 - 飯田・伊那広域農道と交差するところに危険箇所が多い。生活道路として使っているところや、大原線の十字路は見えにくい方向もある。事故が表面化していないが所々にある。
- ・萱野高原の活用が必要だと考えている。萱野高原に登る道の整備などをしてほしい。森林組合も関わっているが、景観も森林組合だけでは無理な部分もあると思う。
 - 生産森林組合に三日町区、福与区で伐採活動をしていただいている。上伊那地域振興局にも理解していただいて伐採を始められるようにしたい。
- ・中川村の陣馬形山がきれいで注目されている。萱野高原もきれいだ、今は立木が伸びてしまっている。景観が良くなれば観光客も増えると思う。
 - 陣馬形山もキャンプ場があり脚光を浴びている。萱野高原は将来的に山荘をどうするかという問題などを含め、考えていかなければならない。

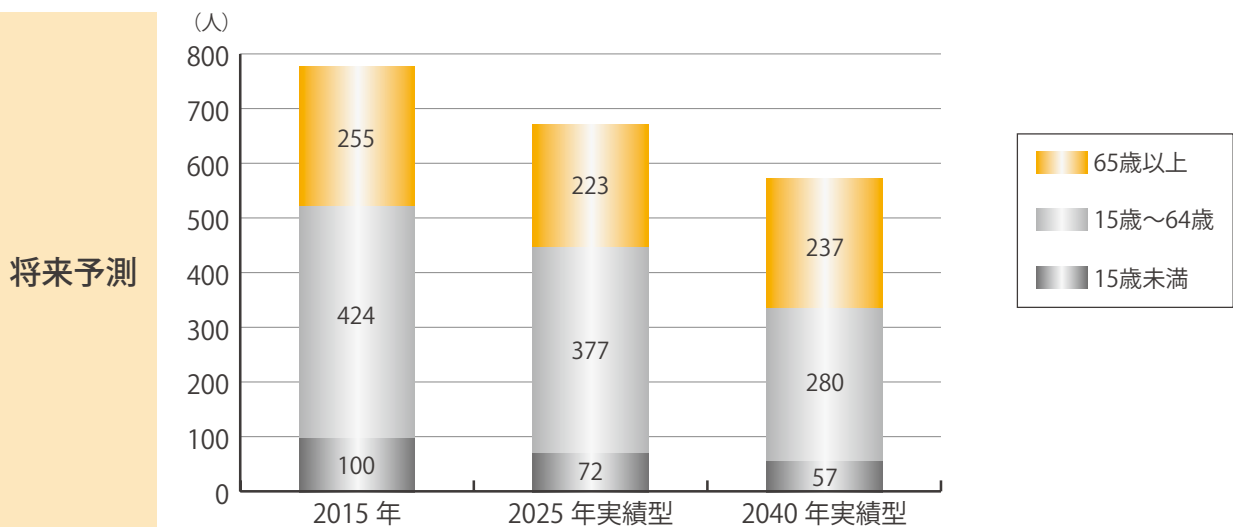
②町政アンケート



③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・区への加入率が高い
- ・人口減少については常会によって様子が異なる



将来予測

課題整理

- 少子高齢化を踏まえて住民のコミュニケーション事業を図るための見直しをする
- 女性の声が反映されやすくなるような仕組みと運営方法の見直しをする
- 自然災害に対する未然防止の対応と発生時の助け合いの仕組みを強化する

主な取組み

- ・ 福与区の宝である人のつながりを次世代へとつないでいくため、区民が集い活動する場を大切にしていきます
- ・ より多くの区民が参加・参画できる行事や活動にしていくために、幅広い区民の声や女性の目線からの声を大事にして取り組みます
- ・ 防災マップの積極的な活用と災害発生時の支え合いマップを活用します

区の将来像

長岡区は、多様な作物が実る豊かな土地と、上伊那各地に飲料水を供給する「水を生む山」があり、数百年にわたり町内外の人に愛されてきた十沢の「お地藏様」をはじめとする歴史的・文化的資源が数多く残されている地域です。

これまで、区民の力で資源を守る活動、お祭りなどの伝統行事や分館活動の他、子ども見守り隊、一人暮らしのお年寄りに対しての声掛けといった取り組みも行ってきました。

ただ、近年では世代間の意識の差や価値観の多様化、少子高齢化などにより、地域の宝として受け継がれてきた行事・取り組み・資源などを守り伝えることは大きな負担となっているため、地域の宝のあり方や区の制度の見直しについて検討していく必要があります。

今後はさらに少子高齢化が進むと予測されていますが、今まで築き上げてきたご近所付き合いなど人のつながりを大切に、年齢や立場に関係なく区民全員が活躍でき、いつまでも健やかに過ごせる、暮らしやすい区を目指していきます。

現状把握

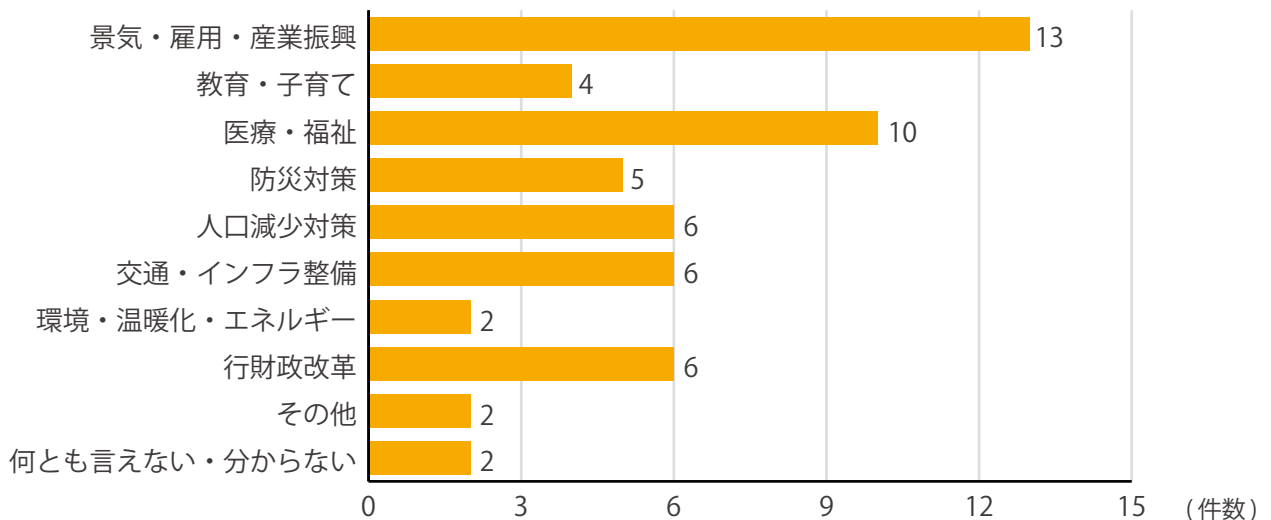
人口：1,144人・高齢化率：37.7%（2021.4.1 現在）

長岡区の現在人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
2021年	124人	589人	431人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・県道19号伊那辰野停車場線の一部は、下水道も水道も入っていない。下水道整備などをお願いしたい。
→何か考えなければいけない。普通は補助があるのだが今はないため、町の単費でやらないといけない。下水道料金で回収が考えられれば、大きい範囲で開発を考えられる。
- ・もみじ湖の紅葉まつりが『じゃらん』で2年連続1位を取り、昨年度68,000人の来場があった。宣言解除に伴い、県外からも多くなると考えられるので警備員の配置が区内にも必要ではないか。
→末広広場～竹ノ尾広場と新田神社をうまく誘導できるように調節をしている。川の上が渋滞すると考えられるため、それらを配慮して警備員の配置をする。
- ・町のHPに区が使わせてもらえるページはあるか？区の宣伝スペースとして各区で単独で作るのではなく、町のHPの一角で使えれば、各区も使えるのでは。自前で作るの難しい。
→他自治体のHP活用状況などを調査し検討する。

②町政アンケート

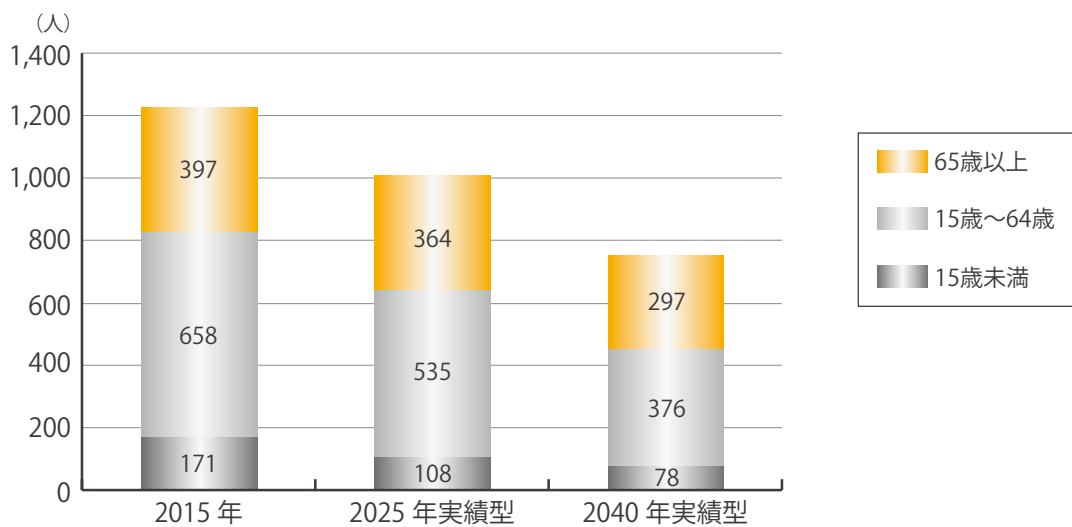


③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・お祭りなどの伝統行事が残っている
- ・歴史などの資源が多い
- ・十沢のお地蔵様は区民全員が会員として管理
- ・高齢者が元気
- ・常会へはほぼ加入している
- ・分館でのスポーツ活動が盛ん
- ・上伊那各地に水道水を供給する水と水を育む山がある
- ・土地が豊かで多様な作物が実る
- ・区独自の上水道を持っている

将来予測



課題整理

- 高齢化率は6年間で5%増え40%近くになりながら人口減少は進行
- 区へのUターン者が少ない
- 消防団への加入が少ない
- 区民の高齢化、人口減少に伴い地域の宝とされてきた山・水などの地域資源管理についての負担が増加

主な取組み

- ・転入者が転入しやすい地域（区内）環境を整備・検討します
- ・ご近所同士で一人暮らしのお年寄りを気にかかけ、区・常会内で状況を共有します
- ・世代間の交流の場を守り、近所付き合いを大切にすることで、災害時でも対応できる準備を整えます
- ・地域の宝である山・水の管理のあり方や取組みを検討します
- ・消防団への加入に対して積極的に区として協力します

区の将来像

南小河内は、先人たちが築き上げた暮らしと伝統が色濃く残り、豊かな水と自然に恵まれた暮らしやすい地域です。

区内を流れる大堰は約400年の歴史を誇り、もみじ湖を水源とする沢川から取水した水は、農業用水・生活用水として区内の水田を潤し、区民の生活を支え続けています。「おさんやり」は大堰にまつわる伝統行事であり、約300年もの間、区民の心の支えとして世代を超えて受け継がれてきました。中世の歴史を今に伝える上ノ平城跡は、上ノ平城跡の会により今も美しい景観が残されています。

南小河内の暮らしやすさは、充実した生活基盤などの恵まれた環境の中で、区民が歴史や伝統を大切に育んできた上に成り立っています。

私たち南小河内区民は、伝統行事である「おさんやり」を子々孫々に伝え続けるとともに、先人たちが築き上げた豊かな大地を守り続けていきます。また、明るい未来へ向かい、子どもたちに親しまれ、区民誰もが暮らし続けたいと思える区を目指します。

現状把握

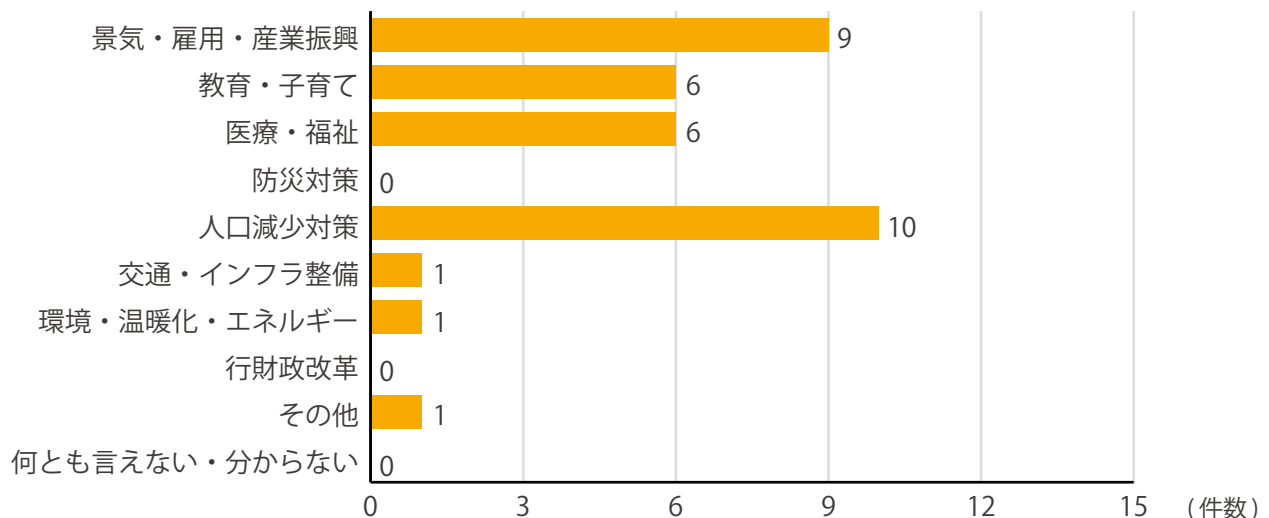
人口：541人・高齢化率：37.3%（2021.4.1現在）

南小河内区の現在人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
2021年	58人	281人	202人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・南小河内も少子高齢化社会へ対応した将来像にしていかなければならない。どういった対策をするのか。
→例年180～190人子どもが生まれていたが、去年は生まれた子供の数が少なかった。住宅地、産業、子育て、高齢者などを引き付けるものが必要であると考えている。
- ・田舎暮らしがしくて南小河内区に移住してきたが、区の今後を考えるなら、アフターコロナ、SDGs、持続可能な農業をどのようにしていくかが大事だと思う。
→2050年までにゼロカーボンを目指し、有機農業を増やすことで脱炭素、温暖化に貢献できると考えている。農家が減ってきているため、早い段階から兼業も含めて農業に関わっていく必要がある。
- ・図書館について。小布施町、木曽町、塩尻市のような多くの人が集まれる図書館ができたらいと思う。
→建設は耐震性に力点を置いている。来年は福祉センターの代替施設の建設、その後に郷土博物館、町民体育館、武道館、図書館に取り掛かる予定である。

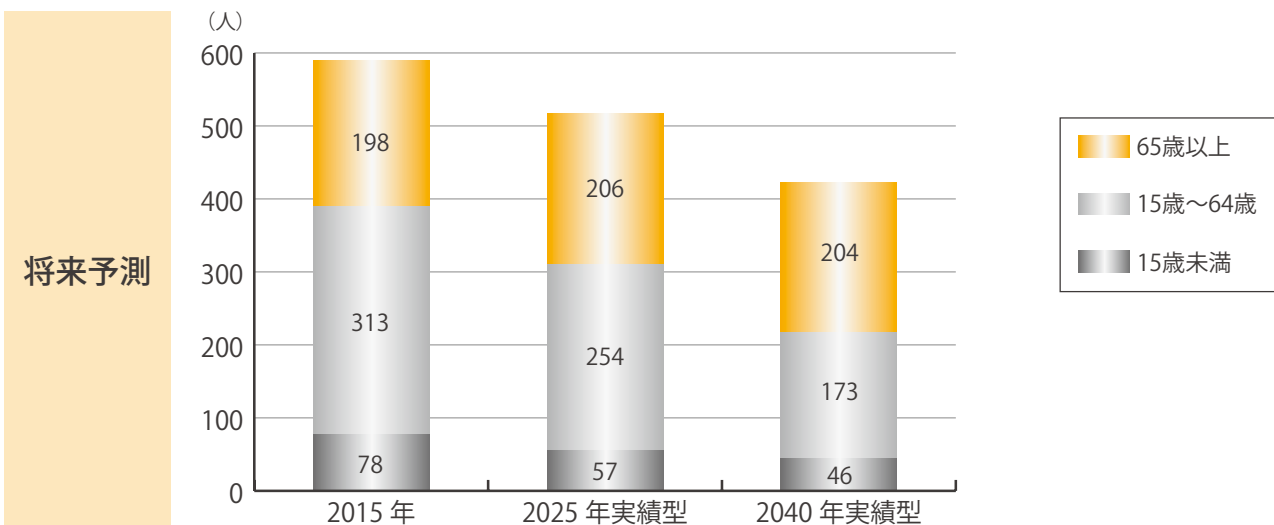
②町政アンケート



③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・子どもを対象にした活動がある
- ・隣接区と協働で行う活動がある
- ・伝統的な行事を継続している（おさんやり）
- ・区への加入率は高い
- ・通勤時間帯の交通量が多い
- ・人口構造が中心区（松島区、木下区、沢区）と少し違う（親子3代で暮らす家がある）
- ・消防団を引退したあとに、公民館役員になる人が多い
- ・保育園、小学校が近接しており、子育てがしやすい環境がある
- ・上ノ平城跡に町内外問わず人が来る
- ・交通弱者に対する交通手段が少ない
- ・宅地利用できる土地が少ない
- ・空き家が多い



- 課題整理
- 人とのつながりの希薄化や世代を超えた交流の減少
 - 少子高齢化による伝統行事や文化、歴史を語り継ぐ継承者の減少
 - 教育施設周辺の子どもたちの安全・安心
 - 子育て環境は整っているが、宅地利用できる土地が少ないため移住者を受け入れづらい

- 主な取組み
- ・公民館・消防団活動、高齢者の課外活動サポートなどを工夫しながら継続し、人とのつながりや世代間交流を維持していきます
 - ・各種団体と協力し、重要な伝統行事である「おさんやり」や上ノ平城跡などの文化遺産、豊かな自然を未来につなげます
 - ・区内に保育所、小学校等の教育施設が固まっているため、子どもたちの安全・安心に取り組めます

区の将来像

北小河内区は、住民が主体となり歴史ある地域を大切に守り育んできました。町内初のセーフコミュニティモデル地区として活動するなど、人と人とが繋がる暮らしやすい区を地域全体で築いています。

私たちの住む「むら」は自分たちで創り守る協働の気持ちを大切にし、思いやりと助け合いの心を持った地域活動と、非常時に備える自主防災活動の持続的な実現を図り、誰もが北小河内に住んでみたくなるような、安全で快適な住みよい生活環境の創出を目指します。

また、豊かな山の自然や美しい川の環境美化を推進し、地域文化や歴史を保存・継承するとともに、未来を担う子どもたちの健全な育成を多方面から応援します。

現状把握

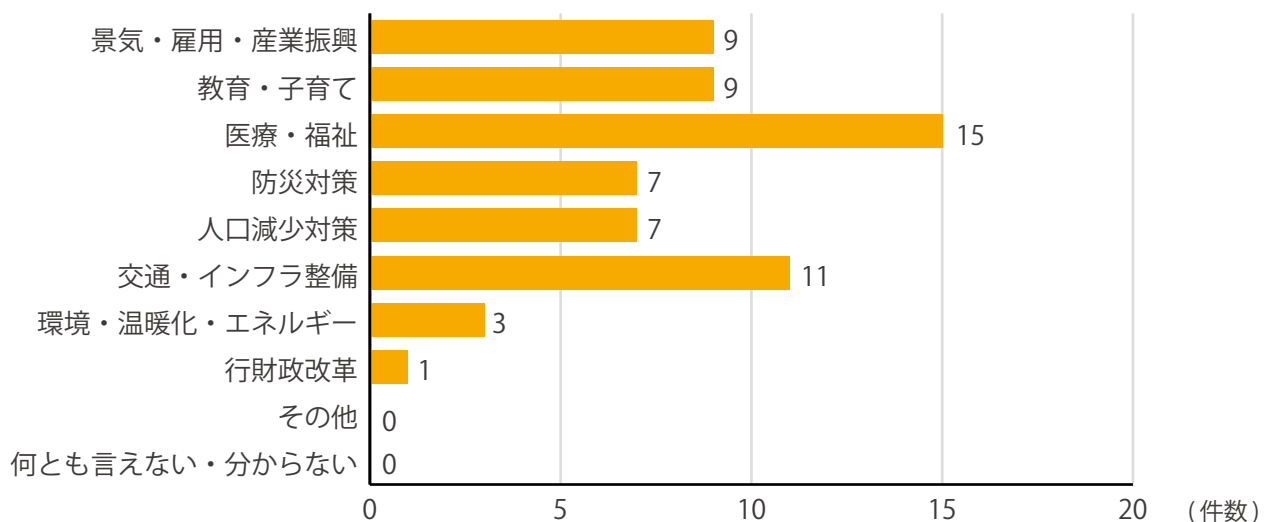
人口：1,037人・高齢化率：31.7%（2021.4.1現在）

北小河内区の現在人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
2021年	129人	579人	329人

①まちづくり地区懇談会 質疑応答

- ・みのわメイトについて。良いアプリを配信していただいている。だが、地域で天気予報が違っていたり、諏訪にいる時に大雨注意報がでたことがある。ピンポイントに予報をしていただくとありがたい。
→気象に関する注意報等は、基本は市町村単位で発表されるものである。町内地区毎での発表は今のところ不可能だが、降雨等の予想については、気象庁等のホームページで概ね地区ごとに確認できる。
- ・子どもが結婚して家を建てる時に補助金をいただいた。土地を探していたときや、住む場所を探中で補助金がとても役に立ったので、町内だけではなく、いろいろなところに発信した方が良いと感じた。
→住宅の建設にかかる補助金について、当町は充実していると思う。具体的には建築屋さん、不動産屋さんが折衝している。できるだけ若者に周知できるようにしていきたい。
- ・北小河内の人口推計についてお聞きしたい。人口推計のデータがどういう形で出たのか、なぜこうなったか。この場合、どういう結果になるかという予想について教えていただきたい。
→現在の人口推計は、第5次箕輪町振興計画の当初推計を基に、2020年3月策定の「人口ビジョン」を加味して、予測ツールで推計したものになる。当時の人口が増えた時のトレンドが反映されている。今後は、振興計画に掲げている合計特殊出生率を上げることを目標にしている。

②町政アンケート

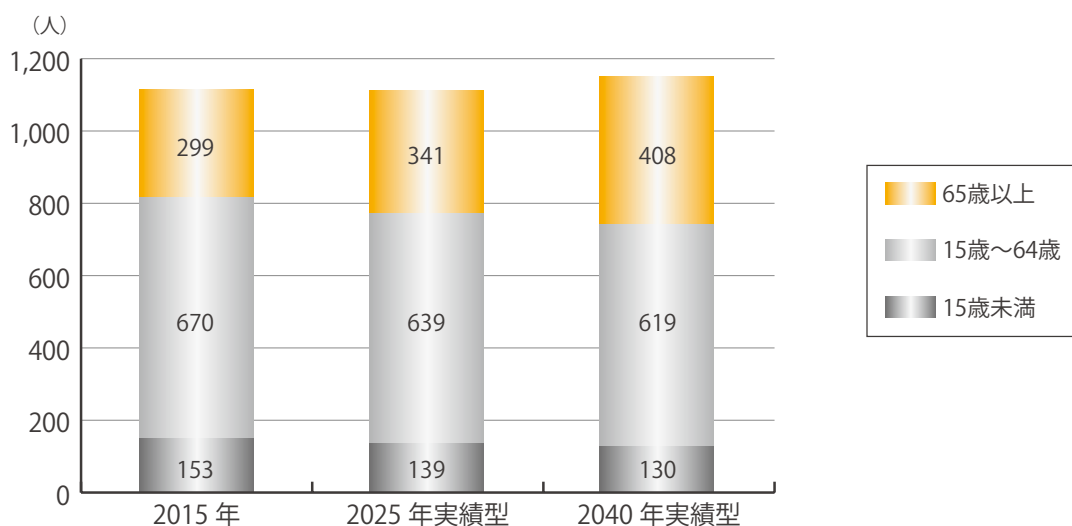


③区の検討作業で出された意見

○現状

- ・ 少子高齢化で、空き家増加、農業の後継者不足で農地遊休化進展
- ・ 山林、林野などの自然財産の放置
- ・ 区内には多くの歴史的文化財、伝統行事が存在する
- ・ 核家族化が進み、併せて隣近所の付き合いが希薄になってきている

将来予測



課題整理

- 過去の災害を教訓に、防災体制の強化、安全安心のためのハード面（インフラ）整備、ソフト面（区民の意識・行動）のワンランクアップ実現
- 荒廃林や耕作放棄地の増加に伴う自然環境、住環境（共有施設、道路、水路等生活インフラの老朽化対策と保全意識の高揚
- 歴史ある北小河内区の文化を伝え、区民や次世代を担う子どもたちが笑顔で生活を送るため、少子高齢化や人口減少に伴う活動低下を阻止する必要がある
- 高齢化・若者不足に伴う区制体制、やり方の追求と見直し
- 住環境整備活動（保全意識高揚含む）、共有施設、生活インフラ（道路、水路等）の老朽化対策

主な取組み

- ・ 安全安心な地域を築きます
- ・ 自然環境を守り、暮らしやすい住環境を整備します
- ・ 歴史を伝え、地域の絆を育みます
- ・ 少子高齢化に見合う区政体制・機能・デジタル化への対応を行います
- ・ 笑顔で生活できる地域、絆づくりを目指し各種サークル、ボランティア活動の輪を広げ、気軽に参加できるふれあいの場をつくり、支援を進めます

区の将来像の推進、実現にあたっては、区民等の協力が不可欠なため、区民等に積極的な情報発信や情報共有が出来るような体制が重要になります。

そこで、区、区民等や町が、それぞれの立場での役割分担を明確にし、自立（自立し対等な関係）、理解（相互理解）、公開（外部に開かれた状態）の原則により連携・協働による推進体制を構築していきます。

◎区の将来像の推進体制

